2013年の金正恩第1書記

2013年の金正恩第1書記

朝鮮・平壌

外国文出版社

チュチェ103(2014)年

はじめに

朝鮮におけるチュチェ102(2013)年は、全党、全軍、全人民が金正恩（キムジョンウン）朝鮮労働党第1書記の指導の下、社会主義強盛国家の建設と社会主義を守るたたかいで輝かしい勝利を収めた誇らしい年であった。

歴史的な初の新年の辞をもって朝鮮人民軍将兵と人民、全国の家庭に心温まる祝福のことばを述べ、全党、全人民に新年の戦闘的課題を示した第1書記は、引き続き年末まで祖国の守りを固め、人民の幸せをはかるべく、やむことなく現地指導の道を歩んだ。

その間、第1書記は北辺の山里から最前線の人民軍陣地、朝鮮における最大のホット・スポットの島防御隊に至る、全国の工場、企業、協同農場、人民軍部隊を訪れる一方、新たな並進路線をもって祖国の尊厳と威力を世にとどろかせることで、アメリカ帝国主義の核戦争策動と朝鮮圧殺策動を粉砕した。

また、この1年の間に数多くのモニュメンタルな建造物を建てるなど、国の様相を一新し、人民の幸せな笑い声が一段と高く響き渡るよう尽力した。

2013年に全朝鮮軍民が社会主義強盛国家の建設と社会主義を守るたたかいで収めた誇らしい成果は、金正恩第1書記に従って進む時、祖国と人民の前途は広々と開かれ、勝利と栄光のみが約束されていることを今一度実証している。

本書には、2013年に社会主義強盛国家の建設と祖国を守るための全朝鮮軍民のたたかいを勝利に導いた第1書記の革命活動の一端が紹介されている。

祖国と人民のためをはかる崇高な理想と夢を抱いて、第1書記がどのように尽力し、奇跡を創造しているかについて、読者諸賢がいささかなりとも理解されるならば幸いである。

目　　次

1．強盛・繁栄の進路

新春慶祝公演『党に従い最後まで』

激変に満ちた2012年を送り、2013年を迎える正月元旦午前零時、希望にあふれた新年を祝って打ち上げられた壮快な花火が首都平壌（ピョンヤン）の夜空を明るく彩り、除夜の鐘の音が全国の山野に鳴り響いた。

首都の空を美しく彩る慶祝の花火を満足げに眺めながら党と国家、軍隊の高位幹部たち、朝鮮駐在外交代表夫妻及び国際機関代表夫妻、武官夫妻ら外国人客と共に祝杯をあげた金正恩第1書記は、新春慶祝公演『党に従い最後まで』を観覧した。

『愛国歌』の演奏で始まった公演は、多彩な演目を舞台に乗せ、朝鮮の地に不敗の強国を建て、国の自主統一、平和と繁栄、強盛・富強の強固な礎石を築いた金日成（キムイルソン）主席と金正日（キムジョンイル）総書記の不滅の業績をたたえた。また、全朝鮮人民を宏大な懐に抱いて彼らの理想を花咲かせている金正恩第1書記への人民の熱い敬慕の世界を繰り広げる一方、民族の団結した力で祖国の統一を成就せずにはおかないとの全民族の意志をうたい上げた。公演は、フィナーレ『新年の雪よ降れ』をもって幕を下した。

新春慶祝公演は、金日成・金正日主義の旗の下、金正恩第1書記の指導に従って革命の歌、たたかいの歌を力強く歌い、最後まで社会主義の道を歩いて、新年にも壮大な創造と変革を引き続き起こしていこうという全朝鮮軍民の信念をいやがうえにも固めさせた。

初の新年の辞

1月1日、金正恩第1書記は人民に向けて新年の辞を述べた。

まず、全人民軍将兵と人民の心を一つにこめて民族の父である偉大な金日成同志と金正日同志に最も崇高な敬意と新年の挨拶を送ると述べ、ついで全国すべての家庭に親和とより大きな幸福があるよう心から念願するとし、南朝鮮と海外の同胞、世界の進歩的人民と外国の友人に新年の挨拶を送った後、2012年に達成された成果について語った。

第1書記は、金日成主席の生誕100周年を盛大に慶祝したこと、金正日総書記を党と人民の永遠なる領袖として高く戴き、領袖永生の大業を実現したこと、錦繍山（クムスサン）太陽宮殿をチュチェの最高聖地として整備し、万寿台（マンスデ）と各単位に金日成大元帥と金正日大元帥の銅像を丁重に建てたこと、党と軍隊と人民の一心団結が不抜の血縁的つながりで固められたことについて述べた。また、人工衛星「光明星－3」号2号機の打ち上げ成功、重要生産基地の改造、倉田（チャンジョン）通りと綾羅（ルンラ）人民遊園地などモニュメンタルな建造物の建設、全般的12年制義務教育実施法令の発布など、経済・文化づくりで去る1年間に達成した多大な成果を総括した。

ついで第1書記は、「新年2013年は、金日成・金正日朝鮮の新たな100年代の進軍路で社会主義強盛国家建設の画期的局面を開く壮大な創造と変革の年です」と述べて、全人民と人民軍将兵が勝利者としての高い誇りと明るい未来への確信を持って強盛国家建設のための壮大な進軍に力強く奮い立つよう呼び掛け、党と人民が進むべ

き不変の進路はただ一つチュチェの道であり、朝鮮革命の百戦百勝の旗は偉大な金日成・金正日主義である、この旗を高く掲げて自主の道、先軍の道、社会主義の道に沿ってあくまでまっすぐに進み、人民に依拠して朝鮮式、金正日同志式にこの地に社会主義強盛国家、天下第一の強国を誇らしく打ち立てるであろうと確言した。

第1書記は、「宇宙を征服したその精神、その気迫で経済強国建設の転換的な局面を開いて行こう！」――これが今年、党と人民が掲げて進むべき闘争スローガンであるとして、強盛国家の建設と祖国統一をめざすたたかいで提起される課題を打ち出した。

第1書記は、経済強国の建設は今日、社会主義強盛国家建設偉業の達成において第一義的に提起される最も重要な課題であると指摘し、経済強国の建設と人民生活の向上をはかるためには、人民経済

の先行部門と基礎工業部門、農業と軽工業、畜産、水産、果樹部門を盛り立てるべきであり、そのためには新世紀の産業革命の炎を力強く燃え上がらせ、発展する現実の要請に即して経済の指導と管理を改善しなければならないと強調した。

第1書記はまた、政治的・軍事的威力の全面的強化に引き続き大きな力を入れて、革命の政治的・思想的基盤と軍事力を固め、社会主義文明国家の建設に拍車をかけ、すべての文化分野を先進的な文明強国のレベルに引き上げることについての課題を提起した。

第1書記は、平壌市をさらに壮大で美しい都市にし、すべての街や村、祖国の山河を社会主義の理想郷に整え、近代的な文化・厚生施設や公園、遊園地を増設し、人民が新時代の文化的生活を思う存分享受できるようにしなければならないと述べた。

第1書記は、今年、強盛国家の建設に画期的な転換をもたらすためには、幹部が「すべてを人民のために、すべてを人民大衆に依拠して！」というスローガンを高く掲げて献身的に働くべきであると強調した。

金正恩第1書記は、最後に、全民族が団結して祖国統一の新たな局面を開くべき具体的な課題を示すと共に、今後も朝鮮は自主、平和、親善の理念の下に世界各国との友好・協力関係を拡大発展させ、地域の平和と安定を守り、世界の自主化を実現するために積極的に努力するであろうと述べた。

この新年の辞は、全国全人民が待ち望んだ第1書記の初の新年の辞であり、世界の多くのメディアがたたえたように、人民への愛と責任感が一言一言ににじむ、慈父の心情を吐露したことばであった。

朝鮮労働党第4回細胞書記大会

1月28、29の両日、平壌では朝鮮労働党第4回細胞書記大会が行われた。

この大会は、朝鮮労働党の永遠なる総書記金正日同志の遺訓によって開催された意義深い会議である。

大会で演説した金正恩第1書記は、チュチェ革命の新時代の要請に即して党を一段と強化し、強盛国家の建設を強く促すうえで党細胞

の位置と役割は非常に重要だとして、細胞を強化するための課題と方途を示した。

第１書記は、現時、党細胞の果たすべき最重要課題は全党員を真の金日成・金正日主義者に、党の真の同志、戦友に育てることである、金日成・金正日主義は本質上人民大衆第一主義であり、人民を天のように崇拝し、人民のために献身する人が真の金日成・金正日主義者である、金日成同志と金正日同志を戴くように人民をあがめ、人民のためにすべてをささげるのは党の確固たる決心である、党細胞は、幹部をはじめ全党員に金日成同志と金正日同志の崇高な人民観を深く体得させ、権柄と官僚主義を一掃しなければならないと指摘した。

つづけて、現時、党細胞の重要課題は次に、大衆との活動に力を入れ、広範な人々が党と血縁の情でしっかりつながるようにすることだとし、病める子、傷のある子をとがめず、いっそう心を砕いて愛と情をそそぎ、傷をかばい、立ち直らせてくれる懐、これが母なる朝鮮労働党の懐だと教えた。

第1書記は、社会主義強盛国家建設の総進軍が力強く展開されている今日、党細胞の重要な課題は、党政策の貫徹へと党員をはじめ全勤労者を力強く奮い立たせることであるとし、党細胞が時代と革命に対して担った重大な使命と任務を立派に果たすには、細胞書記の責任感と役割を高めなければならないと強調した。

第1書記は、大会参加者をはじめ全党の細胞書記が党中央委員会のまわりに結集し、強盛・繁栄の未来を早めるための聖業で、各自に任せられた革命的本分を全うするであろうとの期待と確信を表明

し、大会参加者たちと共に記念写真を撮った。

軽工業発展の大綱

3月18日、首都平壌では金正恩第1書記の臨席の下、全国軽工業大会が盛大に開催された。

第1書記はここで大会参加者たちを祝賀し、歴史的な演説を行った。その概要は次の通りである。

現在、アメリカ帝国主義者とその追随勢力は、経済強国の建設と人民生活の向上に向けて総進軍しているわが党と人民の前進を阻もうと、侵略戦争演習に狂奔しているが、このように一触即発の鋭い情勢がつくり出されているなかでも、党中央は全国軽工業大会を開

催する措置を取った。

朝鮮半島で新たな戦争を防ぎ、平和的な環境の中で経済建設に力を入れて人民生活問題を一日も早く解決するのは、わが党の確固不動の立場である。

今回の大会は、先軍の銃剣をもって国の平和と安全を固く守りながら革命的大高揚の火の手を燃え上がらせて敵対勢力の朝鮮圧殺策動を断固粉砕し、人民の楽園を築こうというわが党の不動の信念と意志をはっきりと示すであろう。

金正日同志があの厳しい「苦難の行軍」の時期から生涯の最後の日々まで心血を注ぎ労苦を尽くしてもたらした近代的軽工業の土台は、われわれが勝利の走路に沿って疾風のように進むことを可能にした立派な竜馬であり、この竜馬を立派に乗りこなせば経済強国の高峰は一気にきわめることができる。

現時、軽工業部門の中心的課題は、既存の生産的潜在力を最大限に引き出して一般消費財の生産を画期的に増やし、近代化、科学化を強力に推し進めて、わが国の軽工業を世界の先進的レベルに引き上げることである。

軽工業部門では何よりも生産を高いレベルで正常化し、各種良質の一般消費財を大々的に生産すべきであり、さらに、近代化、科学化の実現を重要課題とし、高い段階で強力に推進すべきである。

新世紀の産業革命の炎、最先端突破の熱風をよりいっそう激しく巻き起こし、生産設備と工程の近代化と経営の科学化を実現するためのたたかいに拍車をかけるべきである。

一般消費財の生産を増やすと共に、人民へのサービス活動を改善

することに大きな力を入れなければならない。

人民奉仕部門では、サービス活動を創意的に、多様に進め、サービス精神を高めることで人民の便益と利益を最大限はかるべきである。

軽工業の発展に新たな転換をもたらし、人民生活を速やかに向上させるためには、軽工業部門の活動家と科学者、技術者の責任感と役割を強め、全国家的に軽工業を重視し、その発展に大きな力を注がなければならない。

今日、軽工業に対する観点と立場は、人民に対する観点と態度、党に対する姿勢と立場を示す尺度である。

軽工業部門の活動家と勤労者は、金正日的愛国主義と自力更生、刻苦奮闘の精神を持って人民生活向上のたたかいに知恵と情熱を傾倒しなければならない。

党組織は、女性勤労者の多い軽工業部門の特性に合わせて給養活動に常に深い関心を向け、生活上の心配事や不便を責任を持って即時解決し、彼女らがより高い熱意を発揮して仕事に励むようにすべきである。

金日成同志と金正日同志が生涯をかけて築いた軽工業の強固な土台があり、党の指導に限りなく忠実な人民がいる限り、軽工業の発展には転換がもたらされ、人民は必ず社会主義的栄耀栄華を享受できるようになるであろう。

全国軽工業大会における第1書記の演説は、人民生活の向上で重要な役割を担っている軽工業の発展方向と方途を明示した不滅の大綱である。

金正恩第1書記は、大会参加者たちが党の意向を体して軽工業を飛

躍的に発展させ、人民の物質・文化生活を向上させることに積極的に寄与するであろうとの確信を表明し、彼らと共に記念写真を撮った。

2013年3月総会

3月31日、歴史的な朝鮮労働党中央委員会2013年3月総会が、金正恩第1書記の指導の下に行われた。

総会の第1の議題は、現情勢と発展する革命の要請に即して、チュチェ革命偉業の遂行で決定的転換を起こすための党の課題についてであった。

第1書記は本議題に対する報告と結語を行った。

アメリカとその追随勢力は、2012年12月に朝鮮が行った平和的な

人工衛星の打ち上げを非合法として、国連安全保障理事会の「制裁決議」を主導し、また、朝鮮が国の自主権を守る実際的な対応措置の一環として第3回地下核実験を行うと、高強度の「制裁決議」を再び採択する一方、核戦争演習に熱を上げた。

そこで総会は、現情勢と発展する革命の要請を踏まえ、経済建設と核武力の建設を並進させる新たな戦略的路線を打ち出した。

この新並進路線は、それまで朝鮮労働党が打ち出し貫いてきた経済建設と国防建設の並進路線を偏向なく継承し、新たな高い段階に高めたものである。

新並進路線は急変する情勢に対処する一時的な対応策ではなく、革命の最高利益を守るための、一貫して堅持すべき戦略的路線である。同時にこれは、国の防衛力を固めつつ経済建設に拍車をかけ、党の社会主義強盛国家建設構想を立派に実現する正しい路線である。

新路線を提示した朝鮮労働党中央委員会2013年3月総会は、国防力の強化に果たした党の業績を守り輝かせ、社会主義強盛国家建設を早期に実現するうえでの新たな歴史的里程標である。

最高人民会議第12期第7回会議

4月1日、金正恩第1書記の臨席の下、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第12期第7回会議が開かれた。

会議は、朝鮮民主主義人民共和国社会主義憲法の一部内容を修正・補足することについて、朝鮮民主主義人民共和国錦繡山太陽宮殿法を採択することについて、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議の法令「自衛的核保有国の地位をいっそう固めることについて」

を採択することについて、朝鮮民主主義人民共和国宇宙開発法を採択することについて、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議の決定「朝鮮民主主義人民共和国国家宇宙開発局を設置することについて」を採択することについて、朝鮮民主主義人民共和国内閣の2012年の活動状況と2013年の課題について、朝鮮民主主義人民共和国2012年国家予算執行の決算と2013年国家予算についてなどと組織問題を討議した。

会議は、領袖永生の大業をより高い段階に引き上げるために社会主義憲法の一部内容を修正・補足し、錦繡山太陽宮殿法を審議・採択した。

社会主義憲法には、金日成主席と金正日総書記が生前の姿で安置されている錦繡山太陽宮殿は領袖永生の大記念碑であり、全朝鮮民族の尊厳のシンボルであり、永遠の聖地であるという内容が補充された。

会議は、自衛的核保有国の地位の強化と宇宙開発と関連した法令、内閣の活動報告と2012年国家予算執行の決算を承認することについて及び2013年度国家予算に対する決定、その他の諸法令と決定を全代議員の賛成をもって採択した。

最高人民会議第12期第7回会議は、金日成主席と金正日総書記をチュチェの永遠の太陽として戴き、金正恩第1書記のまわりに一致団結して社会主義制度を一段と強く固め、強盛国家の建設と祖国統一偉業の最終的勝利を早める重要な契機となった。

社会主義農業戦線の兵器廠

農業を経済強国建設の主要攻略部門と定めた金正恩第1書記は、

6月19日、肥料生産の重要な一翼を担っている南興（ナムフン）青年化学連合企業所を訪れた。

企業所の出荷職場に高々と積まれた肥料を満足して見上げた第1書記は、農業部門は社会主義経済建設において主要攻略部門である、南興青年化学連合企業所は社会主義農業戦線に弾薬を供給する兵器廠のようなものだ、戦闘で弾薬が重要であるように農業生産では肥料が重要である、と述べた。そして、肥料を大量に生産してわが国を米が有り余る国につくり上げるべきだとし、肥料の増産上必要な問題を確かめ、諸懸案の解決策を講じた。

社会主義農業戦線の兵器廠という第1書記のことばには、企業所の幹部と労働者、技術者が国の農業生産増大に占めるそれぞれの位置

をはっきり自覚し、強盛国家の建設で栄えある勝利者になることを望む大いなる信頼と期待がこもっている。

先軍は勝利

金正日総書記が先軍革命指導を開始した53周年に当たる8月25日、金正恩第1書記は、党機関紙『労働新聞』と軍機関紙『朝鮮人民軍』に著作『金正日同志の偉大な先軍革命思想と業績をとわに輝かそう』を発表した。

著作には、先軍革命思想を唯一の指導指針とし、金正日総書記の先軍指導業績を勝利の原動力として先軍革命偉業の最終的勝利を遂げようという金正恩第1書記の不動の信念と鉄の意志が脈打っている。

第1書記はここで、金正日総書記の先軍革命思想の本質と内容、先軍政治の独創性と正当性、生命力について科学的な解明を行った。

第1書記は、総書記が先軍革命指導をもって祖国と革命、時代と歴史の前に積み上げた不滅の業績を全面的に解明し、総書記の先軍革命思想と業績を継承し、輝かせていくための具体的な課題と方途を示した。

第１書記は、先軍の旗を変わりなく高く掲げてチュチェ革命偉業を最後まで完成させていこうとの信念と意志をこめて、次のように宣言した。

「われわれの先軍革命思想と偉業は必勝不敗です。

偉大なチュチェ思想、先軍革命思想がわれわれの前途を照らし、党の賢明な指導と千万軍民の一心団結、無敵必勝の人民軍がある限り、チュチェ革命偉業、先軍革命偉業の勝利は確実です。

われわれはこれまでと同様、今後とも偉大な先軍の旗を高く掲げて永遠に勝利のみをとどろかすでしょう」

全党員と人民軍将兵、人民は、金正恩第1書記の先軍革命指導に従い、チュチェ革命偉業、先軍革命偉業の最終的勝利をめざしていっそう力強くたたかっていくであろう。

歴史的な書簡

9月16日、金正恩第1書記は全国逓信活動家大会の参加者たちに、歴史的な書簡『逓信事業で新たな転換を起こすために』を送った。第1書記はここで、金日成主席と金正日総書記が国の逓信を発展させるために心血と労苦を傾けたとし、逓信部門の活動家と勤労者が主体的な逓信の発展に積み上げた主席と総書記の業績を守り末永く輝かせ、党の逓信政策を貫くことで国の逓信を最短期間に世界的レベルに引き上げるための課題と方途を明示した。

また、逓信部門のすべての活動家と勤労者が祖国と人民への献身的な奉仕精神をもって栄誉ある使命と任務を立派に果たし、逓信活動で新たな転換を起こすよう強調した。

国の科学技術を発展させるために

社会主義強盛国家を建設するうえで科学技術の飛躍的な発展が緊切な要請として持ち上がっている歴史的な時期に、11月13日、平壌では全国科学者・技術者大会が開催された。

金正恩第1書記は大会に書簡『科学技術の発展で転換を起こし、強盛国家の建設を力強く推し進めよう』を送った。

書簡には、金日成主席と金正日総書記の業績を末永く輝かせ、経済建設と人民生活の向上に必須の科学技術上の問題を解決し、国の科学技術の発展で新たな転換を起こすための方向と方途が明示されている。

第1書記はここでさらに、すべての科学者、技術者及び幹部が党と祖国に対し担った使命感と責任感を深く自覚し、科学技術の成果をもって社会主義強盛国家の建設を促し、金日成・金正日朝鮮の尊厳と威容を誇示することに積極的に寄与するよう強調した。

書簡に接した大会参加者たちは、朝鮮労働党の科学技術重視路線を必ずや貫こうとの決意を固めた。

第1書記は、11月14日、大会参加者たちと一緒に記念写真を撮った。

熱狂的な歓呼に答礼し、熱い愛国心を抱いて祖国の富強・繁栄をはかる科学の探求に精進する科学者、技術者たちに温かい挨拶を送った第1書記は、全国科学者・技術者大会は国の科学技術を飛躍的に発展させ、わが国を知識経済強国につくり上げる重要な契機になるとして、科学者、技術者たちへの期待と確信を表明した。

名誉総長

11月26日、平壌建築総合大学を現地指導した金正恩第1書記は、革命事績教育室と沿革室を見て回った。

大学は創立後、建築人材養成の原種場、建設科学の最先端を突破していく科学研究の拠点として強化され、国の建築発展史に誇るべき足跡を残している。

金日成主席は、1953年10月１日に大学を創立した後たびたび大学

を訪れ、教育事業と科学の研究に関する方向と方途を示した。

金正日総書記は、大学を建設部門と都市運営、国土管理、環境保護部門の人材を総合的に養成する殿堂に発展させ、モニュメンタルな大建造物の設計も担当するようはからった。

金正恩第1書記は、大学の名称を改めて平壌建築総合大学と命名し、大学の教職員・学生の手になる数十件の建築形成設計を指導し、大学の教育を世界的レベルに引き上げるための措置を講じた。

第1書記は、平壌建築総合大学は金日成同志と金正日同志の指導事績が多く秘められている大学である、今年、創立60周年を迎えるこの大学の歴史は、白頭山（ペクトゥ）の希世の偉人たちの指導のもとに歩んできた誇るべき歴史である、大学は、過ぐる60年間、大学の事業を指導

してきた金日成同志と金正日同志の不滅の業績を教職員と学生に植えつけるための教育に力を入れ、その指導業績を末長く輝かせていくべきであると強調した。そして、金日成同志と金正日同志の高志を体して自分が大学の名誉総長となり、大学の事業を後押しすると語った。

教育科学展示館、建築設計室、美術実技室、外国語視聴覚室などを見て回り、大学が果たすべき課題を示した第1書記は、自分が大学の名誉総長になったのだから、大学の幹部たちと写真を撮りたいとし、彼らと共に記念写真を撮った。

大学の名誉総長になるという第1書記のことばには、建設の一大全盛期に続き、建設の大繁栄期を開こうという高い意志と、大学の全教職員、学生への最上の信頼がこもっている。

朝鮮革命を完遂するまで

11月29日、金正恩第1書記は、金正日総書記の指導で大露天博物館として立派に建設された三池淵（サムジョン）革命戦跡地と三池淵郡の各部門を現地で指導した。

第1書記は三池淵学生少年宮殿、ペゲ峰冷麺食堂、三池淵文化会館などを見て回って、郡をいっそう立派に整備し、人民生活を改善するために郡が果たすべき課題を示した。

そして、朝鮮革命の始原が開かれた革命の聖山白頭山の麓にある最初の郷三池淵から社会主義万歳の声、労働党万歳の声がもっと高く上がるようにしようというのが党の確固たる決心であると述べた。

三池淵大記念碑と三池淵革命戦跡地踏査キャンプを見て回った

第1書記は、革命戦跡の踏査は朝鮮革命を完遂するまで続けるべき重要な事業である、党と勤労者団体の各組織は、白頭山地区の革命戦跡の踏査を綿密に手配して、多くの党員と勤労者、青少年学生がここに来て金日成同志と金正日同志の革命思想と不滅の革命業績を深く体得するようにすべきである、そのためには、現在の国家定期踏査と一般踏査を適切に組み合わせて行うべきである、と強調した。

中央追慕大会

12月17日、金正日総書記逝去2周年中央追慕大会が首都平壌で厳かに挙行された。

朝鮮労働党第1書記・朝鮮民主主義人民共和国国防委員会第1委員長である、党と人民の最高指導者金正恩同志が追慕大会に参加した。

大会参加者たちは、天才的英知と洗練された卓抜の指導をもって先軍朝鮮の燦然たる繁栄期を開き、チュチェ偉業の完成をはかる万代の礎を築いた金正日総書記をひたすら敬虔な思いをこめて追慕し、黙祷した。

朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員・朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会委員長の追慕の辞に続いて決意表明演説が行われた。

彼らは、総書記と永別して送ったこの2年間は、総書記と結んだ全軍民の血縁の情が熱くほとばしった日々であった、これらの日々、敬愛する金正恩第1書記のまわりに腕を組み、肩を並べて固く結束し、総書記の思想と理念を具現してきたとして、先軍の旗の下、愛国愛民の意志で全身を燃えたぎらせ、無敵の軍事力と不抜の軍民大団結をもたらした総書記の業績は太陽朝鮮の万代の財宝として燦然たる光を放つであろうと強調した。

彼らは一様に、敬愛する金正恩第1書記の指導の下、金正日的愛国主義で心臓の血をたぎらせ、社会主義強盛国家建設の各部門で飛躍の熱風を巻き起こしていく決意を固めた。

２．国と人民の安全を守り

国家的重大措置

1月22日、アメリカとその追随勢力は、2012年12月の人工衛星打ち上げに言いがかりをつけて、朝鮮の神聖な自主権を乱暴に踏みにじる国連安保理「決議」なるものを採択する挙に出た。

アメリカの主唱になる「決議」は、わが国の平和的な人工衛星打ち上げを非合法とし、朝鮮の経済発展と国防力の強化を阻む「制裁」を一段と強化する敵対的措置で貫かれていた。

横暴極まる挑発的な「制裁決議」を強行採択した敵対勢力の朝鮮圧殺策動により、朝鮮半島とその周辺には厳しい情勢がつくり出された。

金正恩(キムジョンウン)第1書記は、1月26日、こうした情勢に対処すべく、国家安全及び対外部門幹部協議会を招集し、ここでまず、朝鮮半島とその周辺につくり出された情勢と状況に対する報告を聞いた。

報告によると、関係諸国は問題の公正な解決と事態の激化を防ぐべく努めはしたが、それらの国自らが認めているように、彼らの努力には限界があった。その事が確認された以上、わが国の自主権はあくまでも自力で守らなければならないという真理が今一度確認され、同時に、世界の非核化が実現する以前に朝鮮半島の非核化は有り得ないことも明瞭になった。

第1書記はここで、既に国防委員会及び外務省の声明をもって民族

の尊厳と国の自主権を守るための強力な物理的対応措置が取られるであろうと明言した通り、当面の情勢に対処して、実際的かつ高強度の国家的重大措置を取るべきだとして、当該部門に具体的な課題を与えた。

正義の銃で

金正恩第1書記は、アメリカと南朝鮮傀儡一味が朝鮮を狙う「キー・リゾルブ」と「フォール・イーグル」合同軍事演習を強行することに対応して、2月21日、朝鮮人民軍第526大連合部隊管下区分隊の実弾射撃を交えた攻撃戦術演習を指導した。

第1書記は監視台に立ち、訓練指揮官から演習進行計画に対する報告を受けた後、演習開始命令を下した。

夜空をつんざいて信号弾が飛翔し、突撃ラッパが鳴り響くと、各種の火力兵器が一斉射撃の火を吐き、直ちに突撃が開始された。

「敵」の塹壕を一気に乗っ取って打ち上げる信号弾が峰々から上がり、軍人たちの叫ぶ痛快なときの声がこだました。

第1書記は、チュチェ戦法を具現した演習が成功裏に進められたことを大きくたたえ、情勢の要請に即して人民軍の戦闘準備をいっそう緻密に整えるための綱領的な課題を示し、演習でのように、敵を撃滅するためには現代戦に即応した独自の戦法を不断に研究して完成し、いったん戦争が勃発すれば敵に息つく間を与えずこっぴどく叩きのめすことが重要だと強調した。

そして、火は火をもって制し、侵略者には一切容赦を知らぬ敵撃滅の意志が人民軍将兵の握るすべての銃剣にこもっている、敵があえて手出しをすれば、正義の銃、復讐の銃をもって情け容赦なく撃滅してしまうことだと力をこめて言った。

先軍政治の下で固められた朝鮮人民軍の正義の銃、復讐の銃の味、真の戦争の味がどのようなものであるかを知らない戦争狂どもの肝胆を寒からしめる白頭（ペクトゥ）の総帥の決断であった。

うってつけの場所

祖国解放戦争勝利記念館は、金日成（キムイルソン）主席の卓越した軍事思想と理論、不滅の戦勝業績及び朝鮮人民が1950年代に発揮した不屈の闘争精神をもって人々を教育する拠点である。

2012年7月、記念館を訪れた金正恩第1書記は、前世代の人たちの闘争精神を継承するうえで重要な意義を持つ戦勝記念館を先軍時代

にふさわしく建て直すべきだとして、工事を人民軍が担当するよう指示していた。

2013年2月21日、祖国解放戦争勝利記念館の建設状況をじかに確かめるべく現場を訪れた第1書記は、祖国解放戦争勝利記念塔の門柱工事と周辺の環境整理、灌水及び排水体系の樹立、野外兵器展示場の建設など工事上の問題に対し具体的な助言を行った。

第1書記は建設場の全景を眺めて、戦勝記念館の位置はうってつけだ、形成案も申し分ない、実にすばらしい、と再三満足の意を表し、本館と祖国解放戦争勝利記念塔「勝利像」前の教育の場などを見て歩き、戦勝記念館の態様と品格にふさわしく施工がなされなければならないと述べた。

第1書記は、祖国解放戦争勝利記念館を戦勝60周年前に落成し、

金日成主席の不滅の戦勝業績と1950年代に発揮された朝鮮人民軍と人民の領袖決死擁護精神、祖国守護精神を子孫万代に末永く輝かせることだと強調した。

祖国解放戦争勝利記念館に対する第1書記の精力的な現地指導は、記念館とその地区が金日成大元帥と金正日（キムジョンイル）大元帥の不滅の戦勝業績と先軍革命業績を伝える勝利伝統教育の中心地として立派に建設される日まで続いた。

戦闘動員準備状態の点検

金正恩第1書記は、祖国解放戦争勝利記念館の建設を現地指導した日の翌2月22日、朝鮮人民軍航空・対空軍と朝鮮人民軍第630大連合部隊の飛行訓練と航空陸戦兵の降下訓練を現地で指導し、各部隊の戦闘動員準備状態を点検した。

第1書記は、監視台に立って訓練進行計画についての説明を聞き、訓練の準備状態と天候条件が訓練に及ぼす影響などを具体的に確認した後、訓練開始命令を下した。

天地を揺るがす爆音と共に、銀色のタカたちが訓練場の上空に突入した。急上昇して遠くへ消えたと見るや、いかずちのように「敵陣」へと急降下する飛行隊は、敵の本拠を撲滅する勇猛ぶりと戦闘的気概をいかんなく示威した。飛行兵たちは、第1書記の指示した状況に従って離着陸訓練も敏活かつ正確に行った。航空陸戦兵の降下訓練も立派に行われた。

第1書記は、勇猛な飛行隊や「一当百」の戦闘員たちが任務を正確に遂行するたびに、うまい、うまいとたたえ、たいそう満足した。

戦闘の準備で明日は遅きに失するという非常な覚悟を抱いて訓練を昼も夜も間断なく続けた「一当百」の戦士たちは、本日の訓練を立派に締めくくった。

第1書記は、訓練を実によくやった、天候が極めて不利ななかでも飛行兵や戦闘員たちは困難な任務を立派に遂行した、これは平時訓練に努めた結果だとして彼らを大きくたたえた。

第1書記はこの日の夕方、訓練に参加した部隊の将兵を平壌（ピョンヤン）に招き、彼らと一緒に記念写真を撮った。

現代戦は砲兵戦

3月11日、金正恩第1書記は朝鮮人民軍第641軍部隊の戦闘準備実態を点検すべく、軍部隊管下の長距離砲兵区分隊を視察した。

区分隊に双眼鏡と自動小銃を記念として与え、軍人たちと一緒に記念写真を撮った後、第1書記は区分隊の火器操作訓練を指導した。

第1書記は、戦時は戦いに秀でた軍人が英雄であり、平時は訓練に秀でた軍人が英雄だとして、今後も訓練を猛烈に行い、全員が百発百中の名砲手にならなければならない、現代戦は砲兵戦であり、砲兵の戦闘準備は即ち人民軍の戦闘準備である、砲兵たちは名砲手になり、主体的な新しい砲兵戦法を不断に研究・完成し、砲兵の作戦・戦闘組織及び指揮をいっそう入念に行い、砲兵器の威力を最大に発揮するよう努めると共に、戦闘動員準備を常時徹底的に行わなければならないと強調した。

砲兵たちは第1書記の前で、最大の戦闘動員態勢を維持し、敵が祖国の海を0.001mmでも侵すならば強力な報復打撃を加え、戦勝の花火が上がる閲兵式場に敬愛する金正恩元帥を迎えようとの不動の決意を固めた。

一発で命中

金正恩第1書記は、3月20日、超精密無人打撃機の対象物打撃と低空から来襲する「敵」の巡航ミサイルを掃滅する自走高射ロケットの射撃訓練を指導した。

第1書記の訓練開始命令が下ると、超精密無人打撃機が目標を正確に打撃・掃滅し、つづいて自走高射ロケットが低空から来襲する「敵」の巡航ミサイルを一発の下に撃破した。

第1書記は、正確に、一発で痛快に命中させたとして、超精密無人打撃機と自走高射ロケットの性能をさらに高め、戦闘準備を手抜

かりなく整えるための綱領的な課題を示した。そして、今はもう口先で言う時ではない、今直ちに戦争が起きたとしても、敵をこっぴどく打ちのめすことだ、全人民軍将兵は高度の戦闘動員態勢を維持し、最高司令官の祖国統一大進軍命令を待つようにと力をこめて言い、訓練を立派に行った将兵と一緒に記念写真を撮った。

侵略と戦争を防ぎ、国と地域の平和と安全をはかるための人民軍部隊に対する第1書記の現地指導は連日続けられた。

英雄の多い部隊

呉仲洽（オジュンフプ）第7連隊称号を獲得した朝鮮人民軍第1973軍部隊は、金日成主席と金正日総書記の現地指導をしばしば受け、そのすぐれた指導の下、無敵の戦闘隊伍に成長した、歴史と伝統を誇る部隊である。

3月22日、部隊は金正恩第1書記の再度の来訪を受ける栄光に輝いた。

第1書記は革命事績教育室と沿革室を見て回りながら、金日成主席と金正日総書記の細心の指導と配慮の中で部隊が歩んだ誇らしい行路を感慨深く振り返り、総書記は生涯の最後の時期であった2011年

11月30日に部隊の市街戦演習を指導したとして、総書記に従って部隊を訪れたその日を追憶した。

第1書記は、常に先頭に立って党の先軍革命指導に従ってきた部隊の偉勲を大きくたたえ、軍人会館、図書室、英雄教育の場を見て歩いた。

第1書記は、部隊が輩出した共和国英雄、労働英雄が189名、祖国統一賞受賞者が19名にのぼり、部隊内に21の英雄中隊があるとの報告を受け、英雄が実に多い、軍人たちに対する、英雄戦士の戦闘偉勲を通じた教育に力を入れ、祖国統一大戦の突破口を開く戦いで英雄部隊になることだと、大きな信頼を表した。

第1書記は、英雄戦士たちは党と領袖、祖国と人民のために身命をなげうつという思想と信念が固く、平時訓練に邁進したために祖国

の前に大きな軍功を立てることができた、軍人は英雄戦士の崇高な精神世界に学ぶべきだと強調した。

不意の状況を設定して

3月25日、金正恩第1書記の指導の下、朝鮮人民軍第324大連合部隊、第287大連合部隊、朝鮮人民軍海軍第597連合部隊の上陸及び反上陸演習が行われた。

第1書記はまず、「敵」の上陸集団を海上で打撃・掃滅する両大連合部隊の演習と、海軍連合部隊の上陸戦演習を指導した。

第1書記は、「敵」上陸集団に対する砲兵火力打撃に投入された朝鮮人民軍第324大連合部隊管下の某中隊第1小隊第3砲女性軍人たちを呼んで自分のかたわらに火力陣地を設定し、不意の目標を示して掃滅せよとの命令を下した。

第1書記は、軍部隊を視察する際はいつも不意の状況を設定して対応させているが、それは今日の訓練が明日の戦いにじかにつながっているからだ、軍人はいつどんな状況が生じても即時戦闘に移り敵を掃滅する準備ができていなければならない、そのためには、演習で形式主義や要領主義を一切排すべきだと語った。

第1書記の命令を受けた女性多連装ロケット砲兵たちは、指定された火力陣地にいち早く着き、示された目標を正確に命中・掃討した。

第1書記は女性砲兵たち一人ひとりの手を取り、演習計画になかった目標を示して掃滅せよとの任務を与えたが、立派に遂行したとたたえ、彼女たちと一緒に記念写真を撮った。そして、朝鮮の女性は

実にすばらしい、今後とも健康な身で訓練に励み、敵軍との決戦で必ず英雄砲兵になるのだと激励した。

思想の威力で

金正恩第1書記の臨席の下、3月28日、首都平壌の4・25文化会館で全軍宣伝活動家会議が催された。

第1書記はここで演説を行い、戦争前夜の厳しい情勢下で軍事作戦会議ならぬ全軍宣伝活動家会議を開いたのは、思想の威力でアメリカ帝国主義やその追随勢力との全面対決で決定的勝利を収めようという党の不動の信念と意志を誇示するものである、人民軍はすべての思想活動を戦う軍隊にふさわしく火線式に、格式やしきたりを排して戦闘的に進めるべきだとして、人民軍の思想活動における課題と方途を明示した。

思想の重視は革命武力建設の一貫した路線であり、思想と信念が完全にこめられた銃はいかなる場合も必勝不敗である。

全軍宣伝活動家大会は、全軍の金日成・金正日主義化の要求に即して人民軍の思想活動で新たな転換を起こすための綱領的指針がもたらされた歴史的な会議であった。

第1書記は、会議に参加した人民軍宣伝活動家の一致した気持ちをおしはかり、彼らと共に記念写真を撮った。

最終検討、裁可

3月初めから膨大な兵力と核攻撃手段を投入して戦争演習を繰り広げていた米軍は、3月28日、米本土のミズーリ州ホワイトマン空軍

基地からステルス戦略爆撃機「B－2A」などの戦略打撃手段をさらに引き入れ、朝鮮を標的とした地上目標打撃訓練を公然と行った。「B－2A」の南朝鮮上空への飛来は、朝鮮半島で必ず核戦争を起こすとする最後通牒であった。

この重大情勢に対処して、3月29日零時30分、朝鮮人民軍最高司令部では戦略ロケット軍火力打撃任務の遂行に関する作戦会議が緊急招集された。

金正恩第1書記はアメリカ帝国主義と総決算をする時が到来したと判断して、戦略ロケット軍の火力打撃計画を最終検討し、裁可を行った。

第1書記は、アメリカ帝国主義の核威嚇には容赦なき核攻撃で、侵略戦争には正義の全面戦争で応えるであろうと断固と言明し、戦略

ロケットの射撃待機状態突入を命ずる戦略ロケットの技術準備工程計画書に最終サインを行った。

朝鮮人民軍戦略ロケット軍の火力打撃計画の最終検討及び裁可は、世紀を越えて続くアメリカとの対決史にピリオドを打ち、祖国統一の歴史的出来事を早めるための重大決断であった。

盛大な戦勝60周年慶祝行事

金正恩第1書記を迎えて、首都平壌では祖国解放戦争勝利60周年慶祝行事が盛大に催された。

祖国解放戦争参戦烈士陵の落成式

7月25日、金正恩第1書記の臨席の下、祖国解放戦争参戦烈士陵の落成式が厳かに挙行された。

祖国解放戦争参戦烈士陵は、革命的同志愛と崇高な道義心に発した第1書記の提唱と細心の指導によって立派に建設された。

落成テープを手ずから切った第1書記は、人民軍烈士を追慕して黙祷し、そのあと烈士陵を見て回った。

中央報告大会

7月26日、祖国解放戦争勝利60周年慶祝中央報告大会が行われた。

第1書記は、熱狂的な歓呼を上げる参加者たちに温かい答礼を送り、偉大な祖国解放戦争勝利60周年を祝賀した。

大会の参加者たちは中央報告大会を通じて、金日成大元帥と金正日大元帥の不滅の戦勝業績と先軍革命業績をいっそう立派に輝かせ、金正恩第1書記のまわりに一心団結して反米全面対決とチュ

チェ革命偉業の最後の勝利を成就しようとの鉄の信念と意志を固めた。

大マスゲームと芸術公演『アリラン』

7月26日、金正恩第1書記を迎えて金日成賞受賞作品、大マスゲームと芸術公演『アリラン』が行われた。

美しく洗練された芸術的形象と千変万化の背景台、華麗な舞台装置、照明などが完璧な調和をなした公演は、金日成主席と金正日総書記の不滅の業績と、金正恩第1書記のすぐれて洗練された指導により変貌していく朝鮮の姿を生き生きと繰り広げた。

第1書記は公演の成功を祝賀した。

閲兵式と平壌市民のパレード

金正恩第1書記の臨席の下、戦勝60周年慶祝閲兵式と平壌市民のパレードが、7月27日、首都平壌で挙行された。

騎馬縦隊、参戦老兵を乗せた隊列車縦隊、各軍種・兵種縦隊、各軍事大学・軍官学校縦隊などの閲兵縦隊と機甲化縦隊が幹部壇の前を歩武堂々と行進した。ついで平壌市民のパレード行進が行われた。閲兵式と平壌市民のパレードは、朝鮮の強大な軍事力と一心団結の威力を誇示したものであり、全朝鮮軍民はこれを通して金正恩第1書記のまわりに固く結束し、最後の勝利に向けて力強く前進する決意を固めた。

祖国解放戦争勝利記念館の開館式

7月27日、祖国解放戦争勝利記念館の開館式が挙行された。

第1書記の精力的な指導を得て、記念館はホール、諸展示館、大型

パノラマ、展示品などそのどれもが、偉大な大元帥たちの戦勝業績と先軍革命業績を末永く伝える勝利伝統教育の中心地としての風格を備えた。さらに、戦勝記念塔を中心に据えたこの地区は、勲功兵器展示場その他の野外展示場を立派に備えた記念館につくり変えられた。

第1書記は手ずから開館テープを切り、そのあと祖国解放戦争勝利記念館の処々を見て歩いた。

花火夜会

7月27日、祖国解放戦争勝利60周年慶祝花火夜会『われら永遠に勝利せん！』が催された。

夜会には金正恩第1書記が臨席した。

偉大な大元帥たちの戦勝業績と先軍革命業績を輝かせている第1書記を迎えて戦勝節を祝う軍人と人民の歓喜をいや増しながら、7月の夜空に恍惚たる慶祝の花火の海が繰り広げられた。

慶祝宴

7月27日、モンラン館で盛大な慶祝宴が催された。

参加者たちは、朝鮮人民のすべての勝利と栄光のシンボルである金正恩第1書記の安寧と祖国解放戦争で不滅の偉勲を立てた参戦老兵と戦時功労者の健康を念じ、偉大な祖国解放戦争勝利60周年を慶祝して祝杯をあげた。

第1書記は、参戦老兵と戦時功労者を身近に招いて記念写真を撮った。

朝中友好のシンボル

7月29日、金正恩第1書記は戦勝60周年に際し、祖国解放戦争当時中国人民志願軍司令部の位置していた成興(ソンフン)革命史跡地と中国人民志

願軍烈士陵園を訪れた。

成興革命史跡地を見て歩いた第1書記は、今後、平壌市内の大学生と軍人がここを訪れ、祖国解放戦争を勝利に導き、朝中友好の強化発展のためにつくした金日成同志の不滅の革命業績を体得するようにさせなければならないと強調した。

中国人民志願軍烈士陵園では、朝鮮の山と野原には中国人民志願軍の烈士たちが流した血と貴い精神が宿っている、中国人民志願軍烈士陵園は共同の偉業をめざして共に戦った朝中両国人民の戦闘的友誼を語る歴史の証人、朝中友好のシンボルであると語った。そして中国人民志願軍烈士陵園を立派に保存、管理するのは新しい世代の革命家の崇高な道徳信義であり、金日成同志が中国の老世代の革命家とともに築き上げた朝中友好を新世紀の要求に即して強化、発展させるうえで重要な意義をもつと強調した。

海外同胞と共に

金日成主席と金正日総書記は、独創的な海外同胞運動に関する思想を打ち出し、海外に居住する全同胞の民主主義的民族権利の擁護に大きな力を注いだ。そして、彼らに帰国の道、祖国訪問の道を開き、彼らが祖国の富強・繁栄に尽くし、真正な生を輝かしていくよう導いた。

今日は、主席と総書記そのままの金正恩第1書記の愛が海外同胞に熱く及んでいる。

在日本朝鮮人総聯合会（総聯）に教育援助費と奨学金を変わりなく送り、海外同胞が祖国を訪れ、祖国の富強・繁栄に心から寄与す

るよう、第1書記は真摯に彼らを導いている。

第1書記は意義深い戦勝60周年に際して海外同胞を祖国へ招いて慶祝行事に参加するようはからい、行事が終わった7月30日には時間を割いて、行事に参加した海外同胞と一緒に記念写真を撮った。

海外同胞たちは、主席と総書記の意を継いで、祖国から遠く離れて生活する自分たちを思い、祖国へ招いて下さった第1書記に心からなる感謝をささげた。

大叙事詩的絵巻

金正恩第1書記の臨席の下、9月9日、金日成広場では朝鮮民主主義人民共和国創建65周年慶祝労農赤衛軍の閲兵式と平壌市民のパレードが盛大に行われた。

金日成主席と金正日総書記の太陽像（肖像）旗が朝鮮労働党旗、朝鮮人民軍最高司令官旗、労農赤衛軍旗に守られて広場に入った。

「金日成大元帥万々歳！」「不世出の愛国者金正日将軍」などの軍楽が鳴り響くなか、平壌市労農赤衛軍縦隊を先頭に各道の縦隊、各工場・企業の縦隊、国土及び保健医療部門従事者の縦隊、協同農場縦隊、各大学の縦隊、赤の青年近衛隊縦隊が歩武堂々と行進し、その後を多連装ロケット砲兵縦隊が続いた。

閲兵隊員たち一人ひとりの面持ちには、最高司令官金正恩元帥を中心とする革命の首脳部を身命を賭して防衛するとりで、盾になろうとの決死の意志が歴然としていた。

第1書記はそれらの隊伍にいちいち手を挙げて答礼した。

閲兵式に続き平壌市民のパレード行進が行われた。

조선민주주의
경축 65돌
조선민주주의인민공화국 만세!
승리와 영광의

최후승리
경축

金日成主席と金正日総書記の模型銅像とそれを囲んで林立する共和国旗の隊列が姿を現わすと、広場は激情にどよめいた。続いて主席と総書記の大型肖像を守り朝鮮労働党旗を掲げた隊列が、さらにその後を大幅の共和国旗を水平に広げ波打たせて進む隊列、テコンドー隊列、軍人家族の隊列、芸術者・科学者の隊列などとりどりの隊列が通り過ぎて行った。

パレードの参加者たちは、主席と総書記への心の底からなる思慕の念を抑えることができず、幹部壇に立つ第1書記に熱狂的な歓呼を送った。第1書記は幹部壇のバルコニーに進み出て、そんな彼らに温かい答礼を送った。

第1書記は、熱い愛国の衷情をもって閲兵式とパレードを盛大に行った平壌市民に党中央委員会の名で祝賀と感謝を送った。

労農赤衛軍の閲兵式と平壌市民のパレードは、半世紀余をかけて無敵の戦闘隊伍に成長した朝鮮の革命的民間武力の威容と、指導者のまわりに結束した朝鮮人民の一心団結の威力をいかんなく誇示した荘厳な大叙事詩的絵巻であった。

中隊強化の歴史的契機

朝鮮人民軍第4回中隊長・中隊政治指導員大会が10月22、23の両日、平壌で開かれた。

金正恩第1書記は大会で開会及び閉会の辞を述べ、中隊を強化するうえで指針とすべき綱領的な演説を行った。

第1書記はここで、中隊長と中隊政治指導員に対する党の信任は極めて大きいとし、すべての中隊が最精鋭革命強兵に、兵士たちの温

かなふるさとの家につくり上げられたら、中隊でまた会おうと約束した。

第1書記の指導の下に進められた朝鮮人民軍第4回中隊長・中隊政治指導員大会は、全軍金日成・金正日主義化の旗を高く掲げ、中隊の強化を出発点にして白頭山革命強兵を強化する転換的里程標をもたらした歴史的転機としてチュチェの建軍史に長く輝くであろう。

第1書記は、10月24日、大会参加者と共に記念写真を撮り、模範的な中隊長、中隊政治指導員と共に大会を祝賀する各芸術団の合同公演を観覧し、朝鮮人民軍第36回軍務者芸術祭典で当選した中隊軍人たちの公演も観た。

第1書記は大会参加者たちの射撃競技大会場にも姿を見せ、毎日でも会いたい頼もしい中隊長と政治指導員たちにまた会えて大変嬉し

いと言って射撃競技を観覧し、射撃訓練をいっそう強化するための綱領的な課題と方途を示した。

第1書記は彼らと一緒に朝鮮人民軍の火力打撃訓練も見た。

全軍の中隊長、中隊政治指導員は、自ら大会に臨席して貴重な教えを下さり、自分たちのために再三貴い時間を割いて下さった第1書記の崇高な意図を胸に深く秘めて、中隊の強化に精励する決意を強く固めた。

意義深い12月24日

2013年12月24日は、朝鮮人民が金正日総書記を朝鮮人民軍最高司令官に戴いた22周年に当たる日である。

金正日総書記を朝鮮人民軍最高司令官に戴いたのは、白頭山革命強兵の強化発展と社会主義偉業の遂行で重大な意義を持つ歴史的な出来事、祖国の運命と未来を確固として保証する民族の大慶事であった。

意義深い12月24日を迎えて、金正恩第1書記は朝鮮人民軍第526大連合部隊の指揮部を訪れ、将兵たちを祝賀した。大連合部隊は金日成主席と金正日総書記の数十度もの現地指導を受けた栄光に輝き、あまたの共和国英雄を輩出した誇らしい部隊である。

第1書記は、大連合部隊の沿革室を見て回り、人民軍を無敵必勝の革命強兵に鍛え上げた主席と総書記の不滅の業績を感慨深く振り返った。そして、兵士たちとざっくばらんに談笑する主席の写真に見入っては、金日成同志と金正日同志は革命武力の最高司令官であったが、兵士たちと共にいるときには親しい小隊長、中隊長、大隊長であり、彼らの慈しみ深い父であった、と語った。

ついで作戦指揮室と軍事研究室、拳銃射撃館を見て歩き、指揮官や参謀たちが作戦・戦闘組織と指揮能力の向上にやむことなく努めていることに満足し、戦争はいつ開始するとの広告をしないということを瞬時も忘れず、戦闘準備の完成に最大の拍車をかけるよう強調した。

第1書記は軍人会館、キノコ栽培温室その他の施設にも立ち寄って政治思想教育や給養の実態、部隊の指揮管理状況を確かめた後、部隊の全将兵が万全の戦闘動員態勢を堅持し、最後の勝利に向けて力強く前進する社会主義祖国を銃をもって固く守っていくであろうとの期待と確信を表明し、彼らと一緒に記念写真を撮った。

大連合部隊の沿革史に輝かしい1ページを添えた意義深い12月24日であった。

3．慈　父

早暁に

金正恩（キムジョンウン）第1書記は、3月7日早暁、西南前線の最南端、最大のホット・スポットに位置する長財（チャンジェ）島防御隊を視察し、ついで茂（ム）島英雄防御隊を視察した。

長財島防御隊で第1書記は、軍人たちに会いたくてまた来た、みんな元気で変わりはなかったろうなとやさしく尋ねて、一将校の家庭を訪れ、昨年8月に来た時に抱いてあげた長子鄭項明（チョンハンミョン）ちゃんの1歳の誕生日を確かめたうえでやって来たと言い、愛の贈り物をした。

そのあと防御隊を見て歩き、政治思想教育と大衆文化芸術活動に力を入れること、果樹を多く栽培することなど部隊の戦闘準備の完成と軍人の生活改善をはかるうえでの貴重な助言を行った。

ついで茂島英雄防御隊を視察した際も、飲料水と電気の保障問題など軍人の生活に思いを致し、島で生活する軍人たちを特別の関心をもって世話し、彼らが島を故郷のこいしいわが家と考えるようにしなければならないとねんごろに教えた。

第1書記は長財島防御隊と茂島英雄防御隊を視察しながら、ここは朝鮮半島の最大のホット・スポットであると同時に世界の耳目が集中し、多くの国の利害関係がからまる極めて鋭敏な地域である、防御隊の軍人は敵の一挙一動を油断なく注視し、国の自主権を行使する水域あるいは地域にただ一発の砲弾でも落とされたなら即時殲滅

的反打撃を加えることで祖国統一大戦の最初の砲声、信号弾を上げよと述べた。

長財島防御隊と茂島英雄防御隊が万端の戦闘突入態勢を整えていることに今一度満足を表した第1書記は、軍人やその家族と共に記念写真を撮った。

両防御隊の軍人と家族たちに立派な生活条件を整えるよう配慮した第1書記の措置により、両島の陣地と住宅地区は新たに建て直された。

9月2日、変貌した長財島を再び訪れた第1書記は、軍人家族の子供たちを一人ひとり抱き寄せて頬をやさしくなで、名前や年を尋ね、長財島防御隊と茂島英雄防御隊の子供たちは祖国を守る砲声を聞きながら育った先軍革命の証人である、立派に育てるようにと言った。鄭項明ちゃんの名を呼んで抱き上げた第1書記は、この前の3月に誕生日を祝ったがその間ずいぶん大きくなったと言って喜んだ。

第1書記は、清潔瀟洒に、しかも揃いで立ち並ぶ住宅のたたずまいを眺めて、まるで休養所のようだと感心し、軍人家族別に彼らが入居する住宅をそれぞれ背景にして記念写真を撮り、防御隊長の幼い娘宋賢姫(ソンヒョンヒ)さんの独唱と独演をにこにこしながら聞いた。

新しくつくり直された兵営と住宅、陣地などを見て歩く第1書記の様子は、あたかもわが子たちの暮らしを気遣い世話を焼く生みの親の心情そのままであった。

第1書記は、兵営と住宅地区の昔日の面影はまったくなくなり、先軍時代の新しい島の陣地、島の村の仙境が生まれた、長財島の姿は一新した、島の軍人と家族の暮らしを他の人たちよりもっとよくしたいと念じていた金日成(キムイルソン)同志と金正日(キムジョンイル)同志の念願がまた一つ叶えられ

た、われわれが革命を行う目的もほかならぬここにある、と言った。

満足した思いで長財島防御隊を後にした第1書記は、ついで茂島英雄防御隊を視察し、この島の様相も一新した、わたしの気に入るよう立派につくり直されたとして、防御隊の建て直しに参加した諸機関に朝鮮人民軍最高司令官の感謝を送った。

最高司令官のお願い

3月11日早暁、金正恩第1書記は、小型の発動機船に乗り、敵軍がたむろする白翎(ペンリョン)島が目と鼻の先にある西部前線の最大ホット・スポットの前哨基地月乃(ウォルネ)島防御隊を視察した。

長時間にわたり防御隊の細道を歩いて部隊の戦闘準備実態を確かめた第1書記は、監視所をはじめ全陣地を立派に築いた、この島防御隊は防御陣地から打撃陣地に様変わりした部隊だとして大満足を表した。

人民軍部隊の視察では常にそうしているように、この日、第1書記は軍人たちの生活に深い関心をめぐらした。

第1書記は、軍人たちの文化・情操生活状況に留意し、彼らに文化娯楽器材を十分に提供しなければならないと言い、兵室に立ち寄っては薪炭の準備状況や室温について注意を向け、寝床が暖かく食卓が豊かであってこそ軍人たちは営所を故郷のこいしいわが家のように考えるのだと語った。つづいて、軍人生活の改善は即ち戦闘の準備である、指揮官は兵士のために自分がいるということを肝に銘じ、兵士たちのために靴の底が擦り減るほど走りに走らなければならない、指揮官の温かい気持ちが兵士たちに伝わるようにすることだ、と力をこめて言った。

この日、部隊は軍人たちの芸術サークル公演を第1書記にお見せした。

部隊の全将兵は涙まじりに、お会いしたい気持ちは山々ですが、この危険千万な所へは二度とお見えにならないで下さいと、心から申し上げた。

部隊に別れを告げて出発する第1書記を追って冷たい海水の中へまで入る軍人やその家族は、首まで水に漬かりながらも、第1書記の安寧を願う熱い思いをこめて、声を限りに「万歳！」「万歳！」を叫んだ。

早く陸へ引き返せと手を振る第1書記の目尻にも熱いものが光っていた。

9月3日、第1書記は島防御隊の陣地と村が衣替えをしている月乃島を再び訪れた。

第1書記は兵営の建設場を見て回りながら、月乃島防御隊を新しく立派につくり直すのは、孤島の陣地で青春をささげる軍人たちにすぐれた生活条件を提供し、祖国防衛の前哨線を難攻不落の要塞に固める重要な事業だと強調した。

住宅地区を見て回った第1書記は、そのあと監視所に立って最近の敵情についての具体的な報告を受けたうえで火力陣地を視察し、現代戦の要請に即して常時戦闘動員態勢を堅持するよう強調した。

月乃島防御隊に別れを告げる前に第1書記は、防御隊長と政治指導員と腕を組んで歩きながら、陣地の軍人たちを頼む、みんな元気で訓練に励むようにするのだ、兵士たちを自分の実の弟と思って立派に世話を焼き、防御隊を軍人たちの楽しいわが家にするのだと、今一度念を押した。

常に考えるべきこと

人民軍部隊を視察する際に金正恩第1書記が等閑に付することなく常に気遣う問題は、軍人たちの生活である。

3月23日、呉仲洽(オジュンフプ)第7連隊称号を受けた朝鮮人民軍第1973軍部隊管下の第2大隊を視察した時も同様で、第1書記は大隊の大豆倉庫に足を運び、軍部隊を訪れると必ず大豆の作柄について質問していた金正日総書記のことを思って、本年の大豆の栽培で大豊作を記録するようにと強調し、兵舎ではベッドに腰を下ろして見て、これくらいなら悪くないと言い、炊事場でも、調理台に満載されたさまざまの飲食物を見て、盛りだくさんのテーブルを前にした兵士たちの姿を思い浮かべながら喜びにひたった。

第1書記は、何と言っても寝室が暖かく、炊事場に食べ物がたっぷりあればこそ軍人たちが喜ぶ、指揮官は兵士たちのために何をどうしたらよいかを常に考えるべきだ、わたしは指揮官に兵士たちを任せている、だから、党が愛し大切にしている兵士たちを親身になって世話している指揮官に会った時が一番嬉しい、兵士たちが満腹し、楽しく生活しているのを見ると、最高司令官として部隊を視察することに張り合いを覚える、と切々と語った。

このように親しみ深く思いやりに富んだ金正恩第1書記を最高司令官に戴いているがゆえに、党と革命、祖国と人民のために身命を喜んでなげうとうとする朝鮮人民軍軍人の信念はさらに強まっている。

軍の強化と人民の幸せにささげた1日

金正恩第1書記は、3月24日、人民軍の各部門の活動を指導した。

第1書記は、ある軍部隊が自力で研究・製作した戦闘技術機材を見た。その性能と導入実態について具体的な説明を受けた第1書記は、これらの機材はみなすばらしい、ずいぶんと研究に力を入れたようだ、実に立派につくったとたたえ、明るく笑った。

訓練場で機材を作動させて性能を確認した第1書記は、それらを実戦配備し、敵を撃破するに足る絶妙な作戦・戦術方案を教えた。

この日第1書記は、朝鮮人民軍が製作した文化器材や祖国解放戦争勝利記念館に展示する事績遺物及び事績資料、模型、それに革命学院の院児たちに着せる新デザインのオーバーコートの見本を見、朝鮮人民軍協奏団が準備している音楽舞踊総合公演の点検公演も指導した。

第1書記はこの日さらに、人民軍が建造中の食堂船「大同江（テドンガン）」号を視察した。長さ68.98m、幅26m、排水量820t、最大収容人員数300名で、幾室もの食事室と宴会場がある「大同江」号は、第1書記の発意で、任務を受けた人民軍が建造を急いでいたのである。

第1書記は船の外部と内部を見て歩き、「大同江」号は食堂専用の船だから衛生本位の原則で甲板の処理を綿密に行い、食事室の仕上げ用建材は良質の物を使い、高級家具を取り付けるべきだとし、また、食事室の換気と排気にも留意し、船の運用に手落ちがないよう今からしっかり対策を立てることだと念を押した。そして、現代的な食堂船が大同江を運航し、人民にサービスを行うようになれば、

平壌(ピョンヤン)の姿がいっそう美しく異彩を放つことになるだろうと言った。

第1書記はこのように、3月24日を終日、軍の建設と人民の幸せのために奔走した。

待った時間

風致秀麗な妙香山(ミョヒャン)には名所が多く、伝説も少なくない。

金正恩第1書記が平壌市妙香山登山少年団野営所を訪れた5月19日、ここで新しい愛の伝説が生まれた。

野営所の改築工事に必要な対策を具体的に指示した第1書記は、幹部たちに、どうして子供たちが一人も見えないのか、みんなどこへ行ったのかと聞いた。子供たちは登山に行っているが、午後5時ごろ

に戻ってくると答えると、第1書記は、早く子供たちをみんな連れてこい、ここまで来て子供たちに会いもせず、記念写真も撮らずに帰るとみんなどんなに寂しがるだろう、いくら時間が忙しくても子供たちに会ってから帰る、と語った。

第1書記にとって千金とも替えがたい時間が1秒1秒と流れ、ほぼ半時間後にやっと子供たちは帰ってきた。

子供たちは第1書記を囲み、夢のような幸運に喜び、嬉し涙を流した。泣くんじゃない、泣いたら写真がきれいにできない、早く涙を拭いて写真を撮ろう、と促す第1書記の目もうるんでいた。

子供たちを待った半時間。彼らのためとあれば何物をも惜しまない第1書記の無限の愛の世界が、歴史の1ページに今一つの新しい伝説としてつづられた意義深い時間であった。

軍人たちの食生活の改善をはかり

金正恩第1書記が軍人たちの食生活の改善をはかって尽くした労苦は、朝鮮人民軍2月20日工場と第621号育種場にもこもっている。

5月16日、朝鮮人民軍2月20日工場を訪れた第1書記は、各職場を視察し、味噌、醤油の色、化学調味料「マッネギ」の粉末度、製品の包装状態などに深い注意を払った。

蒸し暑いアルファ米飯職場の機械の間を歩いてご飯がよくできているかどうかを確かめ、総合加工職場では、圧搾菓子の味も見た第1書記は、工場の現代化は軍人たちに美味で栄養価の高い食料加工品をより多く供給するためのものだとして、工場現代化の措置を講じた。

5月20日、第1書記は朝鮮人民軍第621号育種場を視察し、この育種場は優良種の草食家畜を育てて軍隊に送る重要な畜産基地だとして、本年の党創立記念日までに落成して草食家畜を大々的に育種するための課題を与え、その方途を示した。

軍人建設者と育種場の従業員たちは、昼食時間がかなり過ぎるまで長時間をかけて道ならぬ道を歩きながら貴重な助言を行う第1書記への感謝に胸を熱くし、第1書記から授かった任務を必ず貫こうとの決意を固めた。

松涛園国際少年団野営所

金日成主席と金正日総書記がしばしば訪れた松涛園(ソンドウォン)国際少年団野営所は、1250余名の収容能力を誇る、国内最大規模のキャンプである。

5月30日、松涛園国際少年団野営所を訪れた金正恩第1書記は、この野営所を新世紀にふさわしく立派に改築しよう、その際は子供たちと共にいる太陽のように明るい笑顔の金日成同志と金正日同志の銅像を建てようと言って、金正日総書記の現地指導コースに従って野営閣と国際友好少年会館、食堂、海洋知識普及室その他を見

て歩き、子供たちの生活にわずかな不便もかけないよう、懇切な助言を行った。

翌年の太陽節（4月15日、金日成主席の誕生日）までに野営所を改造する恩情こもる措置を講じた第1書記は、野営所の構内には子供たちに似合うスローガンをかかげるべきだ、「将軍は前線へ　子供たちはキャンプへ！」「われら幸せ歌う！」というスローガンがよいだろう、わが党は革命を行う党であり、次世代のために、未来のためにたたかう党である、と語った。

一緒に見ると約束

風光明媚な朝鮮東海の浜辺にある松涛園青年野外劇場は、公演と共にさまざまなイベントも催せる政治思想教育及び文化芸術活動の場である。

5月30日、当野外劇場を視察した金正恩第1書記は、松涛園青年野外劇場は金日成同志と金正日同志の不滅の指導事績が秘められている意義深い所である、だから劇場の運営を綿密に行わなければならない、この劇場で中央の芸術団体も公演することができる、常に劇場が活気づくようにすべきだ、と語った。

そして、ここで行う芸術公演を元山（ウォンサン）市民と一緒に見る、と約束した。

第1書記は、観覧席に腰を下ろしてその高さを試しもすれば、音響設備や映写機の状況も詳細に確かめながら劇場を見て回り、従業員たちと記念写真を撮った。

金正恩第1書記は、劇場の責任幹部に管理・運営に力を入れるよ

う再三強調した。

人民の遊園地に

5月31日、金正恩第1書記は東海の名勝麻田(マジョン)海水浴場を訪れた。

第1書記は、金日成同志と金正日同志は生前、遊園地を世界的レベルに整備することについて数回にわたって述べている、わたしはその高志を実現し、わが人民により立派な文化生活条件を整えてあげるために、遊園地を新世紀にふさわしい人民の遊園地につくりかえることを決心した、と述べた。

そして人民の需要を充たせるよう近代的な休養閣を増設する問題、津波の被害を防ぐ問題、屋外・室内シャワー場の用水供給問題

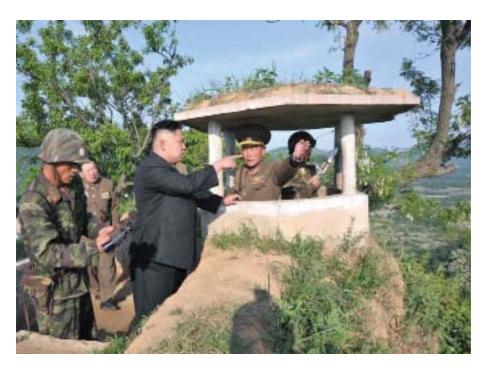
など管理・運営で提起される問題を具体的に調べた。

遊園地を見て回った第1書記は、今年の夏には麻田遊園地をそのまま運営し、秋から翌年の夏まで改造工事を本格的に推し進めて世界的レベルに建設しようと語った。そして別れを惜しむ遊園地の幹部の手を取り、麻田遊園地管理所の従業員は、人民に立派な遊園地を贈ろうとする党の意図どおり今後、遊園地の管理・運営に力を入れなければならないと強調した。

カチル峰陣地の兵士たちを訪ねて

6月2日、金正恩第1書記は五聖（オソン）山を守る諸陣地を視察した。

五聖山は、金正日総書記の先軍革命指導業績がこもる意義の深い山である。

五聖山の諸陣地を視察した第1書記は、最後にカチル峰陣地へ向かった。そこは敵陣までの距離がわずか350mであるので同行した幹部や指揮官たちが必死に止めたが、第1書記は、五聖山に来て彼らに会わずに帰ったら、みんなどんなに寂しがるだろうか、兵士たちに会わずにどうして帰れようかと言って、危険極まるカチル峰陣地を訪ねたのであった。

ここで話すことばは少しばかり大きくても敵兵に聞こえることになる。

軍人たちは大声で万歳を叫びたかったが、そうはできず、手を高く上げ、足を踏み鳴らすばかりであった。軍人たちの頰は涙に濡れていた。

敵陣に目をこらした第1書記は、諸君の後ろには故郷への道があり、故郷には愛する父母兄弟がいることを決して忘れてはいけないと強調し、別れを惜しむ彼らに、ここは決して孤独な陣地ではない、最高司令官が常に諸君と共にいる、五聖山にしょっちゅう訪ねてくる、と言った。

いつ、どの瞬間に敵弾が飛来するか分からぬ危険極まるここカチル峰陣地では、慈父にもまがう最高司令官を囲んで兵士たちが涙に頰を濡らしながら顔を輝かせて写真を撮る、おごそかな光景が繰り広げられた。

鉄嶺の麓のリンゴの海

6月3日、金正恩第1書記は、高山(コサン)果樹農場を訪れた。

金正日総書記が生前たびたび訪れ指導した農場で、高山地区のほぼ10の里にまたがる大規模果物生産地帯である。

第1書記は、第1段階の耕地整理を終えてつくった果樹畑を見て回り、リンゴの木に実がたくさんできたのがすばらしい、リンゴがたわわに実った豊穣な秋の日を見るような思いだとしてたいそう満足した。

第1書記は、第618建設突撃隊が建設した道路を前にして、金正日

総書記がしばしば越え、また金正恩第1書記も越えている鉄嶺(チョル)につらなる道路だとの説明を聞いて満足し、金正日同志の先軍指導の足跡がしるされている鉄嶺の麓に大規模な果樹農場がつくられたのは実に意味の深いことだ、高山果樹農場は先軍時代の仙境の一つだ、と言った。

少年団員たちと共に

6月6日、首都平壌では朝鮮少年団第7回大会が盛大に挙行された。

崇高な次世代観、未来観を抱く金正恩第1書記は、前年6月、朝鮮少年団創立66周年慶祝行事を行うようはからい、行事の参加者たちと記念写真を撮り、6月6日の丸1日を少年団員たちと共に過ごした。この行事を通して全国の人民と少年団員は、少年団員たちに対する第1書記の愛を胸熱く感じた。

このような第1書記の愛は、本年の朝鮮少年団第7回大会にそのまま継がれた。

大会の準備と大会参加者たちの宿泊・給食条件の保障など具体的な措置を講じたばかりか、多忙を極めているなかでも自ら大会に臨席した。

大会参加者たちの歓呼に温かい答礼を送り、大会報告と代表たちの発言に耳を傾け、真っ先に拍手も送った第1書記は、大会参加者全員と記念写真を撮った。

大会に参加した少年団員はもとより、テレビを通じて大会の模様を見た少年団員たちもみな、際限なく続く第1書記の愛をいつまでも胸に秘めて朝鮮の力強い柱になろうと心に誓った。

総書記の意を心にとめて

6月7日、金正恩第1書記は、平壌基礎食品工場を現地指導した。

第1書記は、金日成主席の現地教示標識碑を深い思いをこめて見入った後、沿革紹介室へ歩みを移した。

朝鮮の日本帝国主義支配からの解放後、人民のための基礎食品生産問題に思いを致した主席の恩情で、1946年8月10日に建てられたこの工場は、その後主席と総書記の大きな配慮の中で今や現代的な工場に成長したのである。

第1書記は、1960年代に雑草の茂る荒れ地に新たに拡張する工場の敷地を定め指導した主席と工場の現代化を推し進めた総書記の指導

を得て歩んだ工場の発展の歴史を注意深く聞いた。そして、この工場が金正日同志の賢明な指導のもとに近代的な基礎食品工場に変貌したことを紹介したパネルを見ると、金正日同志は工場の現代化のために数十回の教示と指示を与えている、この工場は、金日成同志と金正日同志の指導業績が秘められているのだから、原料供給対策を綿密に立てなければならない、と強調した。

つづいて、自分は、首都市民の基礎食品問題を解決するために心血を注いだ金正日同志の意を心にとめて、金正日同志に見てもらう気持ちで工場を見て回る、と言った。

工場の内外を視察した第1書記は、この工場は労働党時代の味がする工場、愛国主義がみなぎる工場だと大きく評価した。

第1書記の称賛は、金正日総書記がここを訪れたとしたら間違いなく行ったであろう称賛であった。

愛国者家庭

6月15日、金正恩第1書記は、金日成主席の戦勝業績がこもる楡坪（ユピョン）革命史跡地を訪れた。

楡坪革命史跡地には祖国解放戦争（朝鮮戦争）の時期、主席が人民軍の指揮官と兵士たちに必勝の信念を抱かせた不滅の事績が秘められている。

史跡地の事績遺物を注意深く見て回った第1書記は、講師（解説員）の家族について聞いた。

彼女が自分と一緒に史跡地で働いている夫と長女を紹介し、二人とも除隊軍人だ、次女と独り息子は今軍隊に服務していると答えると、第1書記は、あなたの家族は革命史跡と祖国防衛の持ち場を守っている立派な家庭、愛国者の家庭だと高く評価した。

講師の説明を受けた後、第1書記は、講義がうまかった、楡坪里の由来と結びつけて行った講義が結構だったと高く評価した。また、われわれは金日成同志が厳しい試練の道を踏み分けてもたらした祖国解放戦争の輝かしい勝利とわが軍隊と人民が発揮した1950年代の時代精神を永遠に忘れず、子々孫々に輝かせなければならないと述べた。

そして講師の家族と共に記念写真を撮った。

愛国者家庭——この高貴な評価は、祖国と人民のために一点の曇りもない清く美しい忠誠心をささげている人たちだけが受ける

最大の評価である。

野菜温室

金正恩第1書記は能力の拡張なった平壌野菜科学研究所を視察し、各地方の農場でも温室を立派につくり、人民に四季新鮮な野菜を提供するようねんごろに教えた。

この気高い意を体して、各道・市・郡はそれぞれの実情に即して野菜温室を建設し、その管理・運営に大きな力を入れ、さまざまの野菜を生産している。

第1書記は、全国的に建設されている野菜温室が現実的にどれほどの効果を挙げているかを確かめるべく、6月19日、安州(アンジュ)市松鶴(ソンハク)協同農

場の野菜温室を視察した。

第1書記は、党が人民の食生活向上のために温室を建設するようにと指示したのだから、今後大々的に建設すべきであるとし、わたしが前にも言ったことだが、野菜温室はビニールフィルムを除いては地元の資材でも十分建設できる、人民が実際にそのおかげを被ることができるように温室を標準化して建設し運営しなければならないと述べた。

平安(ピョンアン)南道の温室運営状況も確かめた第1書記は、市、郡の野菜温室のモデルとなるように安州市が温室を立派に建設すべきである、温室野菜栽培とキノコ栽培を一貫して根気強く推し進め、人民が実際にそのおかげを被ることができるようにしなければならないと重ねて強調した。

第1書記を仰ぎ、幹部たちは第1書記と同じような人民の真の忠僕になる決意を固めた。

祝福された双児の兄弟

ある工作機械工場には、数年前、機械の前で金正日総書記に会い、総書記の熱い愛と恩情がこもる養鶏工場で生産された鶏肉と卵を頂いた喜びを述べた双児の兄弟がいる。

6月23日、当工場を視察していた第1書記は、ふと双児のことを思い出して尋ね、彼らが総書記の恩情を胸に秘めて今も工場で熱心に働いており、一人は副職場長、今一人は監視工を務めていると知ってたいそう喜んだ。

二人に会った第1書記は、彼らの挨拶を喜んで受け、今後とも職務

に励むよう祝福した。

兄弟は別に功労もない平凡な自分たち労働者に会って祝福までして下さった第1書記の熱い愛に感激し、涙ながらに、今に労働革新者になって第1書記にまたおまみえするとの決意を固めた。

光り輝く烈士たちの姿

金正恩第1書記は、祖国の統一独立と人民の自由・解放のために青春も生命も喜んでささげた人民軍烈士たちの英雄的偉勲を末永く伝えるべく、首都平壌市に人民軍烈士陵を新たに造営する措置を講じた。

7月1日、第1書記は落成間近の人民軍烈士陵を訪れて建設状況を確かめ、懸案の解決方途を一つひとつ教えた。

第1書記は、墓には墓主があるものだ、人民軍烈士陵の墓主はほかならぬ朝鮮労働党であると言い、烈士陵の門柱と記念塔、命題碑と献詩碑などの形象化及び建設上の方向と方途を具体的に示した。

金正恩第1書記の恩愛により、祖国解放戦争で偉勲を立てた人民軍烈士たちの永生する生は一段と光を放つことになった。

愛と信頼のこもる返書

金正恩第1書記に一切の運命を託し、朝鮮労働党を母と呼ぶ朝鮮の軍民と第1書記の間に行き交う情は、人々が第1書記に寄せた手紙とその返書に脈々と波打っている。

満期除隊を前にした軍人たちの寄せた手紙を読んだ第1書記は、「いつも兵士時代と変わらぬ姿で生きるのだ！　繁栄する新時代を拓く道で諸君は常にわが党の望む旗手となり、ラッパ手となり、突撃隊にならなければならない。　金正恩　2013. 7. 11」という親筆の返書を送り、昌城(チャンソン)郡の住民たちが送った手紙には、「歌にもあるように、昌城は今後も永遠に去年とはまた異なった地、人民の幸せの喜びがあふれる楽園の地にならなければなりません。　金正恩　2013. 7. 11」という親筆の返書を送った。

第1書記は金日成社会主義青年同盟中央委員会フェップル(たいまつ)サッカーチーム１組の選手と監督に次のような親筆の返書を送った。

「国のサッカー熱風を起こすうえで消えることのない『フェップル』になれ！　金正恩　2013. 7. 24」「今後、いっそう立派な試合の成果を期待します。　金正恩　2013. 8. 14」

2013年東アジアカップ女子サッカー競技大会に参加した選手、監督

たちも第1書記の「百戦百勝を誇る世界最強の女子サッカー選手になれ！　金正恩　2013. 8. 14」という親筆の返書を受け取った。

第1書記は12歳に国際音楽コンクールの受賞に輝いた児童と13歳の年で実話に基づく中編小説を立派に書いた生徒が誇りと決意をこめて送った手紙を見て、「本当に立派だ！　今後もっと勉強に励み立派な音楽家になるのだよ。　金正恩　2013. 8. 14」「由進(ユジン)君が送ってくれる中編実話小説『先軍の子ら』を待っています。金正恩　2013. 8. 14」という親筆の返書を送った。

固い決心

黄海(ファンヘ)南道海州(ヘジュ)市首陽(スヤン)山の麓には金正日総書記が親しく命名した愛国石材加工工場がある。

年に数十万㎡の天然石材の生産能力を持つ総合的な現代的建材生産拠点である愛国石材加工工場にも、金正恩第1書記は指導の足跡を残している。

9月2日、第1書記は工場の各所を見て回り、すべての設備がフル稼働しているのが大変嬉しい、この工場で生産されているどの石材の質も非常に高い、と評価し、この工場へ来てみて自信が湧いた、フル稼働の機械音を聞いていると国の富強・繁栄と人民の幸せをめざす建設の大全盛期をいっそう強力に実現させようという決心が強まる、と力をこめて語った。

意義深い日

金正恩第1書記は、某日用品工場を視察し、わが国を経済強国に堂々と押し上げ、朝鮮人民を世に羨むことなく裕福に暮らせるようにするためには、先端機械製品ばかりでなく、人々の創造的生活によりよく資する日用品の生産がとりわけ重要だと語った。そして、日用品生産の量と質を決定的に高め、少ない労働力でより多くの製品を生産し、勤労者の労働条件と生活環境を最上のレベルで整えるためには、工場の現代化を実現しなければならないとして、工場の現代化に要する最新設備をはじめ必要なすべての条件を自分が一切提供しようと約束した。

この日は、金正日同志が朝鮮労働党総書記に推戴された意義深い日、10月8日であった。

このような日に第1書記を工場に迎えて感激している幹部たちに向かって第1書記は、祖国の富強・繁栄に生涯をささげた金正日総書記

の熱い念願を決して忘れずに働くべきだという意味をこめて、工場の名称を「10・8工場」にしようと言った。

「10・8工場」——この名称一つにも総書記への第1書記の潔い心情がこもっている。

自ら寮の敷地を定めて

金正恩第1書記の思索と実践はすべて、金日成主席と金正日総書記の遺訓の貫徹に終始している。

10月12日、金正淑（キムジョンスク）平壌紡織工場を訪れた第1書記は、革命事績教育室を見て回り、人民の服地の問題を解決するため、金日成同志が生涯どれほど労苦を重ね心血を注いだかがよく分かる、金正淑平壌紡織工場は白頭山の3大将軍（金日成主席、金正日総書記、金正淑

女史）の革命事績が秘められている工場であり、金日成同志と金正日同志の崇高な人民観が集大成されている工場であると述べた。

そして、2011年5月6日に金正日総書記がこの工場を訪ねた時、寮が建設されたらキムチやご飯、おかずの味を見てやると述べたが、まだ寮が建てられていないと聞いて、直ちにその敷地を定め、建設上必要な対策をもれなく講じた。

軍人建設者たちの偉勲をたたえて

金正恩第1書記は、10月30日、朝鮮人民軍第267軍部隊の軍人建設者たちと共に記念写真を撮った。

第1書記は祖国の守り手、人民の幸福の創造者として社会主義大建設現場で近衛部隊、英雄部隊の戦闘的気迫と決死貫徹の精神を余すところなく発揮した軍人建設者たちを熱烈に祝い、祖国解放戦争勝利記念館、金日成総合大学教育者住宅、紋繡（ムンス）遊泳場、美林（ミリム）乗馬クラブなど数々のモニュメンタルな建造物には、党の構想を先頭に立って実現している朝鮮人民軍第267軍部隊の指揮官と軍人建設者の愛国的献身性と気高い努力がこもっているとして、今後も党から任された強盛国家建設の新たな持ち場で先駆的役割を果たすであろうとの大いなる期待と確信を表明した。

当軍部隊の軍人建設者は、自分たちを時代の英雄、偉勲の創造者に押し立ててくれた第1書記の信頼と愛情を胸に秘め、第1書記の富強祖国建設偉業の実現に全力を傾けようとの決意をこめて、スローガン「金正恩決死擁護！」を繰り返し叫んだ。

親しく墓主となり

金正恩第1書記は、11月1日、戦闘任務の遂行中犠牲になった朝鮮人民軍海軍第790軍部隊の勇士たちの墓もうでをした。

すぐる10月中旬、駆潜艇233号の指揮官と海兵が戦闘任務の遂行中に犠牲になったという報告を受けた第1書記は、彼らの遺体を残らず引き揚げて手厚く埋蔵し、葬礼を手落ちなく行うよう命じたうえ、墓所の形成案を何度も見直して、墓碑と手すりの形態、石材の色などについても入念に教えた。

革命戦士はみなわたしの同志であり、戦友であるとして大切にしている第1書記は、深い悲しみに沈み、悲痛な面持ちで墓前に花束をたむけて黙祷し、そのあと墓所を見て回った。

第1書記は、国の守りでは犠牲も覚悟しなければならないが、みなあまりにも若くしてわれわれの側を去ったと思うと、安らかに眠ることもできないと言い、かすれた声で、抱負も大きく、偉勲を立てずにはおかないという夢と希望で胸をふくらませながら服務の日々を送った勇士たち、英雄になって帰ってきます、と笑って故郷を後にしたわが子たちの死を知って悲嘆に暮れるであろう父母たち、帰港を信じて夫を待った妻たちのことを考えると胸がつぶれそうだ、わたしさえこんな悲しい思いをしているのだから、身内のみなさんの悲しみは如何ばかりだろうかと喉をつまらせた。

勇士たちの墓をじっと見つめていた第1書記は、墓碑には墓主の名がなければならない、この同志たちの墓主にはわたしがなる、墓碑にわたしの名を入れなさい、墓主の名を入れたらわたしの気持ちも

少しは安らぐだろう、と切々と語った。

　こうして勇士たちの墓碑に「墓主　朝鮮人民軍最高司令官　金正恩」という文字が入れられた。この文字は、戦闘任務の遂行中に犠牲になった勇士たちを、党と祖国、人民そして戦友たちの記憶に永生するようはからった第1書記の崇高な信義と愛を伝えてとわに輝くであろう。

「最高司令官と戦友館」

　金正恩第1書記は、朝鮮人民軍総政治局長であった趙明禄（チョミョンロク）の逝去3周年に際し、人民武力部革命事績館にある「最高司令官と戦友館」を訪れた。

「最高司令官と戦友館」には、銃を取って党と革命を守る重責を担い誇らしい生涯を生きた革命戦士たちの写真と遺物が保存されている。

第1書記は、わたしは趙明禄同志に会いたくて「最高司令官と戦友館」に来た、彼と永訣した日が昨日のように思えるのに早くも3年が過ぎた、趙明禄同志は金正日同志の貴重な革命同志、革命戦友だった、趙明禄同志がなくなった日を迎えてみると、彼がたまらなくなつかしくなって訪ねてきた、党と革命、祖国と人民に尽くした趙明禄同志の業績は、チュチェ革命偉業の勝利的前進と共に長く輝くであろうとして、彼の生涯を高く評価した。

第1書記は館を見て回りながら、党と領袖に限りなく忠実であった人民軍の指揮メンバーは、最高司令官と思想と意志、息吹と運命を共にした、彼らはわが革命の誇りであり、無限の力の源泉である真の同志愛の礎をゆるぎなく固め、人民軍を必勝不敗の革命武力に強化発展させることに一生をささげた堅実な革命家、真の戦士である、わが党は今後も革命的同志愛の力でチュチェ革命偉業の最後の勝利を遂げるであろう、と語った。

この日第1書記は、革命戦友への党の崇高な道義の歴史を語る教育の拠点にふさわしく、「戦友館」をより立派に改装しようと言った。

金正恩第1書記の崇高な道義心によって、「戦友館」は領袖と戦士たちの間に強固な血縁的絆と血潮をもって切り開かれた朝鮮革命の同志愛の歴史、一心団結の輝かしい伝統を生き生きと見せる教育の場として立派に建て直されるであろう。

母の日に

11月16日は母の日、人民の祝日である。

子供たちが母にお祝いの挨拶をし、楽しい一日をすごすこの日、金正恩第1書記は現地指導の途についた。

朝鮮人民軍第354号食品工場を訪れた第1書記は、満面に笑みをたたえて母の日を迎える工場の女性勤労者たちを祝った。

工場の沿革紹介室と菓子作業班、パン作業班、文化会館などを見て回り、工場の現代化状況と生産実態、労働者の文化・情操生活状況などをいちいち確かめた第1書記は、党の意図に沿って工場の現代化を果たすうえで野心満々の目標を立て、最先端突破戦の熱風を巻き起こし、生産の指令と監視、コントロールなど全生産工程のオートメ化、無人化を実現したことをたたえた。そして、工場を見て満足した、世に誇るに足るモデル工場、食品工場の標準工場だ、この工場は垢抜けした工場、百点、万点の工場だと重ねて称賛した。

生産文化、生活文化の確立した職場で女性勤労者たちが労働生活を楽しんでいることに満足した第1書記は再び、この工場は最高の最高だ、実に気分がいいとして、工場を現代的につくり直して軍人たちに栄養に富んだ美味な食品を提供している工場の労働者全員に朝鮮人民軍最高司令官の名で感謝を送り、全労働者が今後とも軍人たちの母と呼ばれるに恥じないよう誉れある任務を立派に果たすであろうとの期待と確信を表明して、彼らと一緒に記念写真を撮った。

工場のすべての党員と勤労者は、軍人たちに各種の菓子やパンを

もっと多く生産して供給しようとの熱意に満ちていた。

弔 意

金正恩第1書記は、朝鮮労働党中央委員会政治局委員・朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議代議員・党中央委員会検閲委員会委員長であった金国泰(キムグッテ)の逝去に際し、12月15日、故人の霊前を訪ねた。

金国泰は党と革命、祖国と人民に忠実な革命家であった。日本帝国主義に国が占領されていた時代、革命家の家庭に生まれ、敵の迫害の下で苦しみあえいだ彼は、祖国の解放後、金日成主席の恩愛の下で有能な幹部に成長し、党と革命武力の強化発展と社会主義祖国の隆盛繁栄のために献身した。

第1書記は故人を追悼して黙祷し、党に忠実な革命家を失った悲痛な思いを胸に霊柩のまわりを巡り、そのあと故人の遺族に会って深い弔意を表し、彼らを温かくなぐさめた。

最高司令官の貴重な革命戦友たち

12月27日、平壌では朝鮮人民軍哨兵大会が開かれた。

金正恩第1書記は党と国家の全般的活動に忙殺されているなかでも、朝鮮人民軍哨兵大会の参加者と共に朝鮮人民軍第3168軍部隊、第695軍部隊軍人たちの撃術の訓練を見、記念写真も撮った。

撮影場で第1書記は、革命的信念と汚れのない良心、真の信義をもって寒風にさらされ、雨雪に打たれながらも国の守りに青春も生命も惜しみなくささげている大会参加者たちの勲功を大いにたたえ、

大会参加者をはじめ全哨兵は党の貴重な革命同志、革命戦友であると語った。

　大会参加者たちは、自分たちを貴重な同志、戦友と呼び、愛と信頼を注ぐ金正恩最高司令官と意志と情、生死運命をいつまでも共にしようと、心からの誓いを固めた。

　記念撮影場には、大会参加者ばかりでなく、全国の哨兵が偉大な革命同志であり、戦友である金正恩第1書記にささげる決死擁護の誓いが熱っぽくみなぎっていた。

４．全国にスポーツ熱風を

アメリカ人が浴した最上の光栄

2月28日、平壌（ピョンヤン）にある柳京鄭周永（リュギョンチョンジュヨン）体育館では金正恩（キムジョンウン）第1書記を迎えて、朝鮮体育大学フェップル・バスケットボールチームと訪朝中のアメリカ・ハレム・グローブトロッターズ・バスケットボールチームとの混合試合が行われた。

紅白の2チームに分かれて行われたこの日の親善試合は、110対110で引き分けた。

その日の夕方、米NBAの元選手デニス・ロードマンと一行のため

に催された夕食会に臨席した第1書記は、彼らと温かい談話を交わした。

第1書記は、彼らが平壌を訪れバスケットボールを愛好する朝鮮の青少年たちにすばらしい試合を見せる機会をつくってくれたことを嬉しく思うと述べ、このようなスポーツ交流が活発になれば両国人民が相互理解を深めるうえに寄与するであろうとの期待を表明した。

デニス・ロードマンは、金正恩第1書記と李雪主(リ ソルチュ)夫人に米国人として初めてお会いできたことを最高の光栄と思うと言い、アメリカと朝鮮両国間のスポーツ交流が続けられることを希望すると強調し、第1書記の健康長寿を願った。

アーチェリー競技を観覧

国防スポーツの発展に深い関心を払っている金正恩第1書記は、3月8日、4・25国防体育団と鴨緑江(アムロッカン)国防体育団間のアーチェリー競技を観覧した。

競技に先立って第1書記は、選手たちの弓と矢の性能を確かめ、他のすべてのスポーツ種目と同様アーチェリー競技でもどんな器材を利用するかによって成績が大きく左右される、だから選手たちに最上の器材を求めて与えるべきだと指示した。

やがて、両選手団間の男女団体競技と個人競技が行われた。

第1書記は選手たちがすぐれた得点をあげるたびにたいそう満足し、アーチェリーは観衆の興味をそそる楽しい競技だ、矢が的を正確に射た時に覚える快感は格別だ、と言った。

第1書記はこの日、われわれの方式の弓術と戦術システム、科学的練習法を完成し、練習に力を入れると共に、選手たちの体質に合う器材を具備すべきだと今一度強調した。

この日、4・25国防体育団と鴨緑江国防体育団のアーチェリー選手と監督、指揮メンバーは金正恩第1書記と記念写真を撮る光栄に浴した。

その後の7月31日にも第1書記を再び迎えて、アーチェリー競技が行われた。

第1書記のかさねがさねの指導と選手たちへの信頼と愛は、アーチェリー種目の向上と国際競技における優秀な成績の貴重な源泉であった。

異彩を放った試合

4月15日、金正恩第1書記は人民軍将兵と一緒に、太陽節（4月15日、金日成（キムイルソン）主席の誕生日）に際して催された金日成軍事総合大学と金日成政治大学の教職員のスポーツ競技を観覧した。

まず軍事総合大学と政治大学両チームのバレーボール試合が行われ、ここでは敵側の戦術的意図と作戦をいち早く看破して、それに対応した戦術を積極的に駆使して連続得点をあげた軍事総合大学チームが勝った。

つづいてバスケットボール、朝鮮将棋、綱引きなどが行われたが、両チームは敏捷な速攻をもって敵側の防御を崩すなど、さまざまの戦術を駆使してたたかった。

両大学の応援団も第1書記を迎えた感激に胸を高ぶらせて、熱狂的な応援戦を繰り広げた。時間の流れと共に試合の熱はいよいよ高まった。

第1書記は、選手の見せるファインプレーに拍手を送って彼らを励ました。

バスケットボールと将棋でも軍事総合大学チームが勝利し、綱引きでは政治大学チームが勝った。

意義深い太陽節に行われた軍事学校教職員対抗競技には、人民軍が全国にスポーツ熱風を巻き起こすうえで先頭を切るべきだとする第1書記の深い意図がこもっている。

勝利の確信と楽観

4月29日、金日成競技場では金正恩第1書記を迎えて万景台（マンギョンデ）賞スポーツ競技大会第1級男子サッカー鯉明水（リミョンス）チームと鴨緑江チーム間の決勝戦が行われた。

鯉明水チームは、平時に練磨した高度のサッカー技術と頑強な忍耐力を発揮して鴨緑江チームを2対1で破った。

彼らの成果を祝った金正恩第1書記は、そのあと最近の国際試合で金メダルを獲得した選手や監督、スポーツ部門の幹部たちに会った。

第1書記は選手たち一人ひとりと握手をし、すぐれた成果で軍人や人民たちに勝利の確信と楽観を抱かせた彼らを大いにたたえた。

選手と監督は、第1書記の接見を受けたことを無上の誉れとして、練習でもっと多くの汗を流して今後も国際試合で金メダルを獲得

し、祖国の栄誉をとどろかそうとの決意を固めた。

遜色のないサッカー専用競技場に

羊角島（ヤンガクト）サッカー競技場は、1989年5月、島の麗しい風致にふさわしく建設された3万余席の観覧席を持つ競技場である。

羊角島競技場を新世紀の要求に即して改造する構想を抱いて、金正恩第1書記は、4月29日、競技場を訪れた。

まず沿革紹介室に寄った第1書記は、競技場にこもる金日成主席と金正日（キムジョンイル）総書記の不滅の業績を感慨深く顧み、そのあと競技場の処々を見て歩いた。そして、グラウンドの芝の生育状態、ゴム引きのトラックとナイター施設、観覧席の椅子など施設物の状態と利用状況

についても具体的に確かめた第1書記は、羊角島サッカー競技場を新世紀の要求に即してわが国のサッカー競技場を代表するに足るサッカー専用の競技場につくり変えるべきだと強調した。

そして、この競技場を少しも遜色のない立派な競技場に改造するための方向と方途を示した。

戦勝の歓喜をいや増した金メダル

7月20日から27日まで南朝鮮で行われた東アジアカップ女子サッカー競技大会2013年でわが国のチームは優勝に輝いた。

喜んだ金正恩第1書記は、7月31日、チームの全員に会って、東アジアカップ女子サッカー競技大会2013年で優勝し先軍朝鮮の栄誉を

轟かせた君たちを祝う、実に大したものだ、一層うれしいことは7月27日（祖国解放戦争勝利記念日）に勝利したことである、戦勝記念館の開館式に列していた時にその報告を受けたのだがどれほどうれしかったか分からない、実に気分がよかったと述べた。

そして、わが国の選手が国際競技で優勝して共和国の旗をあげることは、強盛国家の建設に立ち上がった千万軍民を闘争と偉勲へと奮起させるうえで、千言万語にまさる大きなアピール力と感化力を持っていると語った。

また、わが国の女子サッカーは勝算があり、将来性がある種目なのだから、女子サッカーをさらに発展させることに大きな力を入れ、かつて国際競技で名声を馳せた李錦淑（リ グムスク）選手のような特技のある選手を輩出しなければならないと述べた。

現代的な総合体育館に

スポーツの発展に深い関心を払う金正恩第1書記は、8月6日、改築中の平壌体育館を視察した。

平壌体育館は、1973年4月にオープンして以来数十年間、国内・国際試合や国家的な大会その他さまざまのイベントが行われた。

この平壌体育館を現代的な総合体育館につくり直すことを発起し、その方向と方途を示した第1書記は、工事の完了を間近にした体育館を訪れたのである。

第1書記は、平壌体育館は各種の競技が行われる総合的な体育館であるだけでなく、国家的な重要な行事がしばしば催される所なので、品位のあるものにしなければならないと述べた。

そして、観客が競技や競技の成績などを見ることができるように競技場ホールの天井の中心に四面の大型電光板を設置する問題、照明を設置する問題、本館に大型時計と電光板を設置する問題、観覧席の椅子を新しいものに替える問題など、体育館を立派に改築するために細やかな指示を与え、残りの改築・補修工事を入念に行って平壌体育館を水準の高いものにしなければならないと強調した。

第1書記の意図を心にとめて、建設者たちは昼夜兼行の突貫工事を行い、膨大な工事を共和国創建65周年を前にして完了した。

9月14日、改築なった平壌体育館を視察した第1書記は、館内を長時間見て回り、改築状況をいちいち確かめた。

沿革紹介室で第1書記は、偉大な大元帥たちの指導日誌を見るだけ

でも国のスポーツの発展と勤労者や青少年学生の体力増進に尽くした金日成大元帥と金正日大元帥の労苦がしのばれると言い、競技場ホールでは、天井に金属装飾板をつけたのでホールが明るくなり、なかなか気持ちがいいと言って満足した。そして、ホールの床材も新しく、観覧席の椅子もみな取り替えて本当によかった、場内が完全に垢抜けしたと喜んだ第1書記は、競技場床面の弾性や空間音響についてもじかに確かめ、これなら世界的なレベルだ、いかなる国際試合も満足に行えるだろうと言った。

第1書記は、平壌体育館を見て満足した、改築工事に参加した人たちは、党から与えられた任務を立派に果たしたと言って高く評価した。

第1書記の満足と喜び、それは平壌体育館の改築工事に参加し奮闘した人たちの一致した念願であった。10月3日、新築なった平壌体育館の開館式が挙行された。

再びサッカー試合を観覧

祖国解放68周年記念日前日の8月14日、龍岳山(リョンアクサン)チームと普通江(ポトンガン)チーム間の男子サッカー試合が金日成競技場で行われた。

金正恩第1書記は党と国家の責任幹部たちとスポーツマン、平壌市内の勤労者、青年学生らと共に試合を観覧した。

第1書記は選手たちがゴールインするたびに真っ先に拍手を送り、龍岳山チームが2対1で勝利して試合が終わると、なかなか見ごたえがあったとして彼らをたたえた。

第1書記は２週間前の7月31日にも、４・25チームとフェップルチー

ム間の男子サッカー試合を観覧し、さらに8月28日にも金日成競技場でフェップルカップ第1級男子サッカー決勝戦を観覧した。

スポーツの振興をはかる第1書記の努力は、スポーツへの社会的関心を高め、全国にスポーツ熱風を巻き起こし、それによって大きな成果が達成された。

2013年7月27日の戦勝節まで、朝鮮のスポーツマンはサッカー、卓球など10種目の国際試合で50余の金メダルをはじめほぼ110のメダルを獲得した。これは2012年の同じ期間に比べ金メダルは2.7倍、メダル総数では2倍にのぼるすばらしい成果であった。

広い度量

金正恩第1書記は、党と国家、軍の全般活動の指導に多忙を極めていた9月6日、米NBAの元選手デニス・ロードマンとその一行に会い、デニス・ロードマンがこのよい季節に友人として再び朝鮮を訪れたことを大いに歓迎するとし、今後いつでもこだわりなく訪ねてきて休息もし、愉快な日を送るようにと言った。

デニス・ロードマンは、金正恩元帥が多忙ななかでも貴重な時間を割いて自分たち一行に会って下さって心から感謝する、これは米国人民に対する善意の表れである、宏量な敬愛する金正恩元帥と親交関係を結んだおかげで再び訪朝する幸運に恵まれた、今後さまざまの形態のスポーツ及び文化交流に尽力するつもりだと言い、最大の敬意をこめて準備した記念品を第1書記に贈呈した。

第1書記は、デニス・ロードマン一行と共に4・25チームと鴨緑江チーム間のバスケットボール試合を観覧し、そのあと一行を夕

食会に招いた。

デニス・ロードマンは、金正恩元帥が自分たちのために多くの貴重な時間を割き、最高に歓待して下さったことに心から感謝すると述べ、今回の訪問を生涯の美しい追憶として胸深く秘めるであろうと言った。

国際競技を観覧

9月12日から17日まで平壌では、2013年青年・成人クラスアジアカップ及びクラブ重量挙げ選手権大会が開かれた。

金正恩第1書記は、9月15日、成人級女子63kg及び69kg級競技を観覧した。

第1書記は、国際重量挙げ連盟副委員長兼アジア重量挙げ連盟第1副委員長、アジア重量挙げ連盟の書記長と副委員長に会った。彼らは、第1書記に、青年・成人クラスアジアカップ及びクラブ重量挙げ選手権大会が成功裏に行われるよう必要な措置を講じて下さったことについて謝意を表し、第1書記が競技を見て下さったことはアジア重量挙げ連盟にとって大きな支持、励ましとなり、自分たちにとって大きな光栄であり幸せであると述べた。

第1書記を迎えて行われたこの日の競技で、朝鮮の李偵花(リジョンファ)、呂銀姫(リョウンヒ)、趙福香(チョボクヒャン)選手が日ごろ錬磨した技量を十分に発揮して金メダルを獲得した。中国の竜丁玲選手もその特技を生かして金メダルに輝いた。

第1書記は、朝鮮をはじめ10余の国と地域の優秀な男女選手が参加した今回の選手権大会が、スポーツマン相互間の交流と協力を深

め、ウェート・リフティング技術を向上させるうえで重要な契機になるものとの確信を表明した。

変貌するメーデー・スタジアム

1989年5月1日にオープンしたメーデー・スタジアムは、これまで数多くの国内・国際試合や第13回世界青年学生祭典、金日成賞受賞作品——大マスゲームと芸術公演『アリラン』などを行った規模の大きいユニークなスタジアムである。

金正恩第1書記は、スポーツ強国をめざす時代の要請に即してメーデー・スタジアムの一新をはかる遠大な構想をもって、9月24日、現地を視察した。

沿革紹介室と革命事績物保存室を見た第1書記は、メーデー・スタジアムを世界に誇りうる総合競技場に一新し、金日成同志と金正日同志の指導業績を末永く輝かせていこうと述べた。そして、観覧席、トラック、サッカーグラウンド、室内トレーニング場などを見て回り、メーデー・スタジアムをわが国のスポーツ施設のシンボルに、文明国にふさわしいものに立派に改築するのが党の決心だ、メーデー・スタジアムの改築は、チュチェスポーツを一段と発展させ、国力と文明を顕示する重要な事業であるとして、具体的な課題と方途を示した。

水上に浮かぶ花かごにもまがう秀麗な川中の島、人民の文化遊園地である綾羅(ルンラ)島上のメーデー・スタジアムは、日増しに高まるチュチェ朝鮮のスポーツ熱に支えられて現代的に立派につくり直されるであろう。

大衆スポーツの発展をめざして

10月10日、平壌体育館では、金正恩第1書記を迎えて全国道対抗スポーツ競技大衆スポーツ部門の各種決勝戦が盛況裏に行われた。

この日の競技では朝鮮相撲、サッカーボールを両脇に抱え頭にも載せて走る競技をはじめ、民族スポーツと娯楽競技などがあった。

第1書記を迎えて決勝戦に臨む選手たちは誇りと喜びにあふれ、応援団のやんやの声援喝采と相まって、競技場はいやがうえにもフィーバーした。

第1書記は選手たちが士気高らかに奮戦し、すぐれたシーンを見せるたびに拍手を送り、手を振って彼らを励ました。

試合が終わった後、第1書記は、毎年道対抗スポーツ競技を開催して各道が大衆スポーツを発展させ、社会的にスポーツの雰囲気をつくるべきであるとし、大衆スポーツを発展させれば、すべての勤労者が丈夫な体で労働と国防に大いに寄与することができると述べた。

朝鮮労働党創立記念日に行われた全国道対抗スポーツ競技大衆スポーツ部門の各種決勝戦は、全社会にスポーツ熱風を巻き起こし、大衆スポーツの隆盛をはかるうえでの今一つの重要な契機となった。

５．人民の理想と夢を現実に

新しく制定された時計表彰

朝鮮労働党の歴史上初めて金正日（キムジョンイル）総書記の名入りの時計表彰制が定められた。

祖国と人民のために特出した業績を積んだ総書記の名入りの時計表彰を行うのは、朝鮮人民の長年の念願であった。それが金正恩第1書記によって叶えられたのである。

時計表彰の最初の授与式が2月15日に行われた。

授与式に臨んだ金正恩（キムジョンウン）第1書記は、祖国の防衛と社会主義強盛国家の建設で抜群の偉勲を立てた軍人、科学者、技術者、労働革新者に金正日総書記の名入りの時計を親しく授与した。

時計表彰授与式は、金正恩第1書記を首班とする党中央委員会のまわりに一致団結し、強盛国家建設の最終的勝利と祖国統一をめざすたたかいに立ち上がった軍人と人民をいっそう励ます契機となった。

叶った念願

意義深い光明星（クァンミョンソン）節（2月16日、金正日総書記の誕生日）に、万景台（マンギョンデ）革命学院では金正恩第1書記を迎えて金日成（キムイルソン）主席と金正日総書記の銅像除幕式が盛大に挙行された。

万景台革命学院は、革命の途上で先に世を去った烈士たちの子女

の教育をはかり、朝鮮の解放直後、金日成主席が由緒ある万景台に建てた革命家遺児教育の殿堂である。

主席は生前百数十回にわたって学院を訪れ、院児たちの慈父として彼らの学習と生活に細心の配慮をめぐらした。

毎日主席にお会いしたいと願う院児たちの気持ちを汲んだ抗日の女性英雄金正淑（キムジョンスク）女史の主唱で、学院には朝鮮最初の金日成主席の銅像が建立された。

歳月は流れ、学院の全教職員、院児たちは主席の銅像と並んで金正日総書記の銅像も是非と熱願した。

革命の指導を開始した初期も社会主義を守ってたたかった厳しい日々も変わることなく学院に深い関心を払い、教育の物質的・技術的土台を固め、教職員と院児たちに無限の恩情を注いだ今一人の慈

父、それは敬慕してやまない金正日総書記であった。

全教職員、院児の熱望は、チュチェ革命偉業を継承した金正恩第1書記の真情と深い配慮によって叶えられたのである。

意義深い2月の祝日に第1書記を迎えて金日成主席と金正日総書記の銅像除幕式を盛大に挙行することになった院児たちの胸は、第1書記への熱い感謝の念と歓喜にあふれていた。

芝の新品種

金正恩第1書記の意図に沿って国家科学院生物工学分院芝研究所（当時）が現代的に建設された。

この芝研究所は、さまざまな研究室と分析室、試験室がある屋舎と科学研究温室、試験田圃などからなっていた。

5月5日、芝研究所を訪れた第1書記は、各所を見て回り、施工と研究活動の状況をつぶさに確かめた。

そして、科学研究温室と野外試験圃場で育種している諸品種の芝を見て、四季青々とし、耐寒性のほか耐踏性もあり、地方それぞれの特性に合った各種の品種を研究しなければならないと語った。

研究所が試験栽培しているわが国の新しい品種「ソンドルミル」を見てから、わが国には成川(ソンチョン)芝のような丈夫な芝があるが、緑色期間の短いのが欠点だ、それゆえわれわれの式の新品種を研究すべきだ、現在、裸の地面が多いが、それは見た目にも悪く、風が吹けばほこりが立つので健康にも悪い、耕地を除くすべての地に木を植えるかまたは草地を造成し、花や地被植物を植えて裸の地面や雑草の茂る地面がないようにすべきだと言った。

この日第1書記は、国家科学院が研究・製作した芝採種機、芝播種機、芝刈り機、地固めローラーなどを見て、これらの機械を広く普及するようにと指示した。

そして、研究活動に必要な設備を提供するための対策を立て、科学者、研究士が研究活動で革新を起こし、新しい祖国を人民の楽園として美しく築いていくものとの期待と確信を表明した。

樹木が茂り緑の絨毯が果てしなく広がる麗しい祖国の明日を切り開こうという第1書記の献身は、芝の新品種育成にも熱くこもっている。

紋繍遊泳場

毎日報告せよ

風致秀麗な大同（テドン）江の岸辺に建設されている紋繍（ムンス）遊泳場は、朝鮮人民の思想・感情と美的志向、新世紀に適合した世界的レベルの総合遊泳場である。

野外及び室内遊泳場と各種のスポーツ施設を持つ規模雄大な紋繍遊泳場は、金正恩第1書記の人民への今一つの贈り物である。

金正恩第1書記が2013年1月に下した命令を受けて勇躍紋繍遊泳場の建設に乗り出した軍人建設者たちの努力によって、着工後わずか数カ月で最大の難工事——膨大な量の根切り工事と基礎コンクリート打ちが基本的に終了した。

5月6日、土ぼこりの立つ紋繍遊泳場建設場を訪れた第1書記は、鳥瞰図の前で工事の進行状況について説明を受け、軍人建設者たちが革命的軍人精神をもってさまざまの難事を克服して短時日のうちに多くの工事を遂行したとたたえた。

建設用資材の供給対策について具体的な報告を受けた第1書記は、工事の状況報告を毎日行うこと、必要な物は自分が必ず保障するから遊泳場を将来にも遜色のない人民のすぐれた憩いの場につくり上げよう、軍人建設者たちは人民のためのこの事業に今一度人民軍の気概を示すのだと励ました。

そして、最高司令官の意図通りに遊泳場の建設を党創立記念日の10月10日までに必ず完了するものとの期待と確信を表明した。

楽しい思いがする

8月9日、金正恩第1書記は再び紋繍遊泳場の建設現場を訪れた。

その間、多忙を極めながらも遊泳場の建設状況報告を毎日のように受け、貴重な助言を与えてきた結果、遊泳場の建設は目に見えてはかどっていた。

第1書記は、遊泳場鳥瞰図の前で説明を受けた後、各所を見て回り、室内遊泳場の玄関ホールに金正日総書記の立像を建立することをはじめ、工事の完了前に解決すべき事柄についてこまごまと教えた。

室内遊泳場の2階から野外遊泳場を見下ろした第1書記は、建設が終わり、現代的な遊泳遊戯設備を完備すれば実にすばらしいだろう、きっと人々の目を見張らせるだろう、紋繍遊泳場は今にここを訪れる勤労者や青少年たちで大いににぎわうだろう、そのことを思うと今から楽しくなると言った。

オープンした紋繍遊泳場でレジャーを楽しむ勤労者や青少年たちの姿を思い浮かべる第1書記の目には、明るい微笑がただよっていた。

最高司令官の誇り

9月17日、落成を前にした紋繍遊泳場建設現場を視察した金正恩第1書記は、建設状況を一つひとつ具体的に確かめ、党創立記念日（10月10日）前に世界的な紋繍遊泳場を建設して人民に贈れるようになったとたいそう喜んだ。

そして、これは、わが党の社会主義文明国の建設構想を先頭に立

って実現していく人民軍軍人の決死貫徹の精神が生んだ奇跡だ、人民軍に任務を与えると世人を驚かす奇跡が創造される、だから人民軍に任務を与える甲斐がある、人民軍が担当した社会主義強盛国家建設の各現場では、毎日奇跡が創造されている、こんな軍隊を持っているのはわが党の矜持であり最高司令官の誇りである、人民軍を信頼して遊泳場の建設を決心したのは正しかった、紋繍遊泳場は自分の力を信じ、自分の力で建設するわれわれの遊泳場、決心すれば不可能な事はないということが今一度実証されたわれわれの建造物である、と喜ばしげに語り、党創立記念日まで紋繍遊泳場を立派に完成して人民に贈ろうと再び熱っぽく言った。

本当に気持ちがいい

9月22日、再び紋繍遊泳場建設現場を訪れた第1書記は、遊泳場の姿が毎日のように変わっている、数日前に来た時とは較べようもなく変貌した、軍人建設者たちが本当に多くの事をやり遂げたとたいへん満足した。そして、室内遊泳場と野外遊泳場の各所を見て回り、仕上げを立派に行うための貴重な助言を行い、わずか数日の間に実に多くのことをやってのけた、遊泳場が完成すれば紋繍地区の様相は一変するだろう、そのことを思うと本当に気持ちがいい、と言った。

党が望む基準

金正恩第1書記は、10月13日、朝鮮労働党創立記念日を迎えて立派に完成した紋繍遊泳場を訪れた。

9月22日の現地指導に続いて9月29日と10月5日も現地で具体的な指

示を与えた第1書記は、この日、完成した紋繍遊泳場を見て回りながら、どこにも欠点がない、遊泳場がオープンすれば勤労者や青少年たちが非常に喜ぶだろう、とたいそう満足し、紋繍遊泳場は党が望む基準に到達したから、一日も早く落成式を行って人民がレジャーを満喫するようにしようと言った。

親しく敷地を定め、113件もの設計案をすべて検討し、何回となく現地指導を行った第1書記の疲れを知らぬすぐれた指導を得て、最上のレベルで立派に建設された紋繍遊泳場はついに、10月15日、落成式を行う運びとなった。

銀河科学者通り

金正恩第1書記は、平壌（ピョンヤン）市の郊外に科学者のための住宅を建設する措置を講じた。

7月1日、住宅建設現場を訪れて短時日のうちに雨後のたけのこのように建てられた住宅群を満足気に見渡した第1書記は、工事の進行状況をつぶさに確かめ、工事を最短期間に完了するうえで提起される問題の解決策を具体的に教えた。

9月8日、第1書記は朝鮮民主主義人民共和国創建65周年を控えて立派に完成した銀河（ウンハ）科学者通りを視察した。

銀河科学者通りは1000余世帯分21棟の多層住宅と学校、病院、託児所、幼稚園などの公共建築、16カ所に造成された児童公園、小公園それに各種便益サービス施設からなっている。

個々の住宅には家具をはじめ生活必需品が完備されており、各学校にはすべての教育条件と環境が整っている。託児所、幼稚園の内

外も童心に合わせて整えられ、住宅地の各所に設けられた公園もスポーツと文化的休息を同時に行えるように各種の遊技施設が備わった多機能・多目的公園として整備されている。

第1書記は、3号棟と15号棟の住宅や託児所、幼稚園、食堂、銀河院など各所を長時間にわたって見て回り、すべての住宅と公共建築が新世紀の要求に即して建築美学的に、造形芸術的に立派に建設されていることに満足の意を表した。

金正恩第1書記の構想と精力的な指導によってわずか7カ月間で建設された銀河科学者通りの落成式が9月11日に行われた。

人民の笑い声

9月14日、金正恩第1書記は綾羅（ルンラ）人民遊園地遊戯場に新設された立体律動映画館と電子娯楽館を視察した。

第1書記の構想と細心の指導を得て建てられた綾羅立体律動映画館は、シーンに合わせて揺れる椅子に座って３Ｄ映画を観覧する映画館で、映し出されるシーンが観客に目の前の現実であるかのような楽しみと緊張感を味わせるのが特色である。

第1書記は、映画館の5号観覧室で３Ｄ映画を見ながら、営業時間をはじめ観覧の組織と設備の管理上留意すべき問題について具体的に語った後、現代的な綾羅立体律動映画館がオープンすれば、綾羅人民遊園地では人民の笑い声がいっそう高く響くであろうとして、

映画館と関連部門の活動家が人民の忠僕としての使命と任務を立派に果たすものとの確信を表明した。

つづけて新築の電子娯楽館を視察した第1書記は、電子娯楽館を正常運営し、青少年や勤労者たちに手落ちなくサービスするためには、奉仕者たちの責任感と役割を強め、設備の管理をきちんと行うべきだと強調した。

柳京歯科病院と玉流児童病院

金正恩第1書記の崇高な人民愛、次世代愛、未来愛を体して、現代的な児童病院と歯科病院が建設されていた。

第1書記は、7月16日、児童病院と歯科病院の建設現場を現地指導した。

降りしきる雨の中を第1書記は先頭に立って各所を見て歩き、病院の建設と運営及び管理上必要な問題の解決策を一つひとつ講じた。

第1書記は、歯科病院を遜色のない立派な病院にするには先端医療設備を完備しなければならないとして、必要な設備と備品を備えるための対策を立てた。

児童病院の建設現場を訪ね、患者の生活に必要な備品について貴重な教えを与えていた第1書記は、人民と子供たちのために各病室に備えるテレビや冷蔵庫などもすぐ送ることにすると述べた。

第1書記は、建設者と当該部門の幹部が、党がわが人民と子供に贈る児童病院と歯科病院を党創立記念日まで完成するであろうとの確信を表明した。

9月23日、完成段階にある歯科病院建設現場を再び訪れた第1書記は、中央ホールを通って各治療室を見て回りながら建設状況をつぶさに確かめ、病院を立派に完成するのに必要なあらゆる対策を講じた。

2階に上がった第1書記は、治療室を整える問題、治療設備を解決する問題、優秀な医師や歯科技工士、看護婦を配置する問題など、病院を運営するうえでの問題についても一つ一つ指示を与えた。

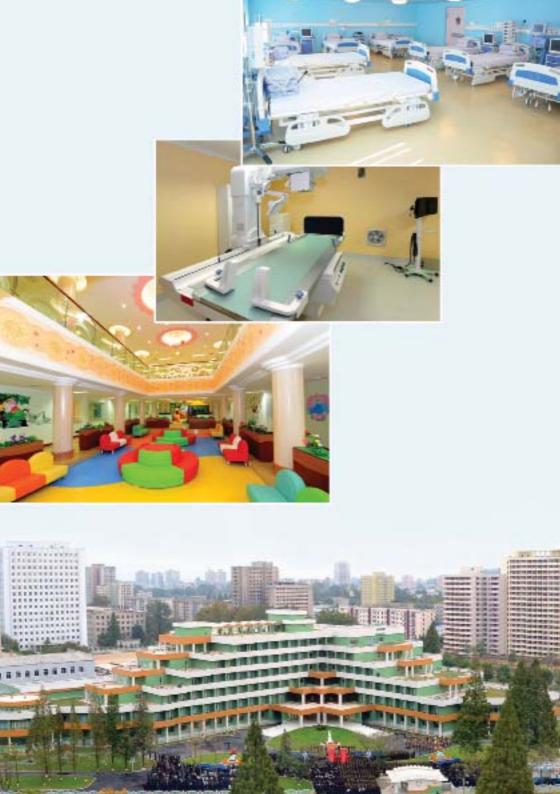
3階に上がって会議室を見て回っていた第1書記は、この病院に立派な名をつけるべきだとして、平壌を象徴する柳京という名を冠して「柳京（リュギョン）歯科病院」と名付けようと言った。

そして、施工を細部に至るまで注意を払ってきれいに行ったとして、建設工事を所定の期日までに無条件に完工するものとの期待と確信を表明した。

子供たちのためなら何物をも惜しまぬ第1書記の愛に支えられて建てられる児童病院は落成を目前にしていた。

10月5日、第1書記は児童病院建設現場を再び訪れた。

延べ建築面積3万2800㎡、6階建ての児童病院には、第1書記が送った最新式の医療設備を十分に備えた各種の治療及び処置室、手術室、数十の病室、それに入院した子供たちの勉強部屋、特色ある遊戯場、休憩場なども備わっている。

第1書記は、病院の各所を見て回りながら施工状況と医療設備の設置状況をつぶさに確かめ、すべての治療室と病室は言うまでもなく、各所が隅々まで高い水準で整えられていることに満足の意を表

した。

そして、建築物を建てるうえで設計と施工、建材は3大要素であるとし、党の指導のもとに児童病院の設計が立派になされ、戦闘力のある部隊が建設を受け持って施工を立派に行い、良質の建材で仕上げたので、世界に誇りうる建築物が出来上がったと述べた。

第1書記の関心と配慮のもと、玉流(オンリュ)児童病院は最新式の設備を整え、童心に即して建設された。

柳京歯科病院と玉流児童病院の開院式は、10月13日に行われた。

美林乗馬クラブ

総計画図の前で

5月6日、建設中の美林(ミリム)乗馬クラブを訪れた金正恩第1書記は、総配置図と室内調練場の形成図案を見て具体的な指示を与え、8月9日、再度建設現場を訪れた。

第1書記は、総計画図の前で説明を受けた後、工事の進捗状況をつぶさに確かめて、軍人建設者たちが短期間に多くの成果を上げたことにたいそう満足した。

そして、美林乗馬クラブが完成すれば、勤労者や青少年学生がここへ来て乗馬運動をし、労働と国防に備えた健全な精神と頑健な体力を培うであろう、美林乗馬クラブの建設は金正日同志の指導業績を輝かせ、人民がより文化的な生活を享受するうえで重要な意義があるとし、真夏の陽光の照りつけるなか、長時間総計画図にある建設対象をいちいち名指ししながら貴重な助言を行った。

第1書記は、金正日同志の事績遺物保存室を立派につくり、室内調練場、乗馬学校、サービス施設などの建物を遠い将来にも遜色がないよう建設すると共に、開設後クラブの運営に手落ちのないよう事前対策に力を入れることだと指摘した。

人民への贈り物

9月22日、完成段階にある美林乗馬クラブを再び訪れた第1書記は、室内調練場、乗馬サービス所、野外観覧席、円形調練場、乗馬学校、馬屋などを見て回り、先月の現地指導の際に与えた課題の通り種畜研究所と獣医病院の建設が急速に進んでいることに満足を表した。

そして、建物の外壁に付けている木材の質感を生かし、腐蝕しないように処理し、園林の造成にも力を入れることなど、建設の完成上重要な問題についてこまごました指導を行った。

第1書記は、党創立記念日がさし迫っている、軍人建設者たちはわが党が人民に贈る美林乗馬クラブを期日を違えず完成するようにと強調した。

仕上げを立派に行うよう

美林乗馬クラブの建設を提起し、たびたび建設を現地指導した第1書記は、10月13日、再び建設現場を訪れて、革命事績教育室をはじめ乗馬クラブの各所を見て回り、落成の準備に手抜かりがないよう強調した。

第1書記は、革命事績教育室に金日成主席と金正日総書記の写真

文献を明るく丁重に展示すると共に、事績遺物の展示も手落ちのないようにし、人工池のまわりには夢金浦（モングム）の砂を敷き、築山には良種の木を見栄えよく植えるなど、環境の整理に力を入れるよう指示した。

完璧な条件と環境が備わった乗馬クラブを勤労者や青少年に提供すべく、第1書記が注いだ労苦には限りがなかった。

発展するチュチェ建築の偉容

第1書記の深い関心と細心の指導のもとにわずか7カ月余りで、平壌市郊外の広大な敷地に美林乗馬クラブが立派に建設され、朝鮮労働党の人民愛を語る馬蹄の響きが高く鳴り響くようになった。

10月20日、完成した美林乗馬クラブを訪れた第1書記は、革命事績教育室と乗馬サービス所、室内調練場、乗馬知識普及室その他を見て歩いて建設状況を具体的に確認し、対象の特性と用途に即して建築物を設計し施工すべきだとする党の建築美学思想が乗馬クラブの諸施設物に十分に反映されており、すべての対象が党が望む基準に達したと評価した。

乗馬運動をする青年たちの姿を見た第1書記は、馬に乗って力強く駆ける彼らを見ると、先軍によって疾風のごとく進む社会主義強盛国家の姿が目に浮かぶようだ、もう近代的な乗馬クラブが出来上がったので、金正日同志の願いをかなえ、人民と子供たちに乗馬運動をさせることができたと喜んだ。

そして、美林乗馬クラブの完成は、日に日に飛躍し発展するチュチェ建築の様相を見せる一大示威となる、現代的な乗馬クラブを建

設して人民に贈ると約束した党の意図が立派に貫かれたとしてたいそう喜んだ。

青少年と勤労者のための大衆乗馬サービス施設——美林乗馬クラブは、金正恩第1書記の主体的建築美学思想の輝かしい具現であり、第1書記の細心かつ精力的な指導の偉大な結実である。

美林乗馬クラブは、10月25日、落成を公表した。

しゃれた工場

5月31日、金正恩第1書記が朝鮮人民軍第1521号企業所に新設された成川江網工場を視察した時のこと。

工場の外部を見て回った第1書記は顔をほころばせ、ユニークな建物だ、外に立って見たら誰が生産工場だと思うだろうか、なかなかしゃれている、設計が現代的美感に即して立派になされている、工場を自己流の新しい建築物として仕上げようと努めたことがよく分かる、この工場はどこへ出しても誇るに足る特色ある工場だ、と高く評価した。

そして工場の各生産工程を見て回り、建設状況と技術装備、生産実態などを具体的に確かめた。第1書記は企業所に新設されたプラスチックパイプ職場を見た後、企業所の従業員たちと記念写真を撮った。

撮影後歩みを移していた第1書記は工場の前で立ち止まって建物の全景をほれぼれと眺め、見れば見るほどしゃれている、実に立派だ、このまま発つのは惜しい、工場をバックにして写真を一枚撮ろう、と言って労働者たちを呼び、今一度記念写真を撮った。

今日の昌城

昌城(チャンソン)連席会議50周年に際して金正恩第1書記が2012年8月に発表した著作で示された課題を受け止めて、昌城郡の党員をはじめ全勤労者はその貫徹に取り組んだ。こうして郡内の地方産業は急速な発展をとげ、住民の生活はめざましく向上している。

6月13日、第1書記は昌城郡におもむき、昌城食品工場、昌城閣、昌城冷麺食堂、恩徳院、昌城革命事績館、チャンゴル革命史跡地、昌城郡文化会館などを見て回り、郡の役割を強め、人民生活の向上をはかるための助言を行った。

昌城食品工場では酒、炭酸ジュース、煮物、ゼリー、醤油、味噌などの生産品を見て、金日成同志が指摘したように、山をひかえて

いる所では山を利用し、海をひかえている所では海を利用して、自分の郡と地元の特性に即応した自分の顔を持ち、自分の郡を発展させるべきであると述べた。

そして、黄金の山に枝もたわわに実った木の実が目に浮かぶように工場の商標図案もより立派につくり、容器の問題も解決すべきであると強調した。

昌城閣と昌城冷麺食堂、恩徳院、郡機関所在地を見て回った第1書記は、昌城閣と昌城冷麺食堂では、これらの食堂で食事をした住民の感想文に目を通し、人民が満足しているならそれはよいことだと言って明るく笑い、幹部はどんな仕事をしても人民が喜ぶように努力すべきである、人民の要求、利益がわれわれのすべての活動の基準であると強調した。

昌城革命事績館を訪ねた第1書記は、全国的に昌城郡のように金日成同志と金正日同志の現地指導事績が多く秘められている郡はない、金日成同志と金正日同志の賢明な指導があったがゆえに黄金の山、宝の山となった今日の昌城があるのだと述べた。

そして、最初に昌城郡で社会主義万歳の声が上がらなければならない、昌城郡は金日成同志と金正日同志の指導業績が数多く秘められている所なので、常に全国の先頭に立つべきであると語った。

第1書記は、昌城郡の住民を思って昌城の地を何回も訪ねた金日成主席と金正日総書記の事績資料を注意深く見て、金正日同志は金日成同志の意を体して昌城郡を豊かにするために労苦を重ねた、金正日同志の賢明な指導があったがゆえに黄金の山の新しい歴史が子々孫々に継がれるようになったと述べた。

チャンゴル革命史跡地を訪れた第1書記は、金日成主席の革命事績碑と昔の姿をそのままとどめている事績建物を感慨深げに見て回り、チャンゴル革命史跡地はわが党の歴史と共に意義深い所である、ここを永久保存し、祖国解放戦争を勝利に導いた金日成同志の革命業績と高邁な徳性によって人民を教育すべきである、と述べた。

次いで昌城郡文化会館で郡芸術サークルの公演を観た第1書記は、どこへ行っても金日成同志と金正日同志の革命思想、革命活動史が脈打っている昌城の地を訪ねて各所を見て回り、芸術公演まで観ると、金日成同志と金正日同志の偉大な人民観が今さらのように深く感じられるとし、人民のためにより多くの仕事をするという決意が固まると語った。

金日成総合大学教育者住宅

金正恩第1書記は、銀河科学者通りと共に金日成総合大学の科学者住宅の建設構想を打ち出した。

設計に目を通し、強力な建設陣を送るなど必要な対策をすべて講じた第1書記は、8月13日、真夏のきびしい暑さをおして建設現場を訪れた。そして、次世代を国家の人材に育て上げるために一生をささげる教員たちは愛国者だ、彼らのためには何物も惜しむことはない、今後このような住宅を多く建設して教員や研究士に提供するのが党の意図である、教員や研究士の生活の隅々まで気を配るのは祖国の将来にかかわる重要事である、立派な住宅を建て、暮らしに不自由のないようにしてこそ、彼らが次世代の教育や科学の研究に専心できるのだと指摘した。

第1書記は、今年は金日成総合大学の科学者住宅をまず建て、来年は金策(キムチェク)工業総合大学の科学者住宅を、さらに国家科学院がある平城(ピョンソン)地区にも科学者住宅を、そして景色のよい延豊(ヨンプン)湖畔には科学者用の休養所を建設することにしようと言った。この日第1書記は、全国すべての大学の実態を具体的に調査し、学生寮も立派に整備するようにしようと言った。

9月28日、第1書記は完成を間近にした44階及び36階建ての金日成総合大学教育者住宅建設現場を再び訪れて、カラータイルと強化ガラスで趣向を凝らした住宅の外観を満足げに見た後、2号棟3階の数所帯と17階の屋内休憩場を見て歩いた。

建築の造形化、芸術化が立派になされた新居で暮らすことになる

金日成総合大学の教育者たちに何かをもっとと願った第1書記は、前に約束した通りすべての住宅に液晶テレビを備え、また各種食器も一式で贈ることにしようと言った。

書斎では、教員や研究士が帰宅後も学習と授業の準備に差し支えがないよう机の前の壁面に備え付けの書棚を設け、廊下の壁には円形の姿見を掛けることにしようと言った。

10月9日、金正恩第1書記を迎えて、金日成総合大学教育者住宅の落成式が盛大に行われた。

落成式の参加者たちは第1書記を仰いで熱狂的に歓呼した。

式後第1書記は、党と国家の責任幹部たちと共に新築の住宅を見て回り、そのあと入居する教員、研究士と共に記念写真を撮った。

記念撮影に参加した教員、研究士は、あらゆる生活条件が申し分なく整った住宅を贈って下さり、落成式にも臨席して喜びを倍加して下さった第1書記の愛と信頼のもと高価な誇りある生を享受する有難さに、涙を止めどなく流した。

風変わりな写真の背景

金正恩第1書記はある日、朝鮮人民軍第313軍部隊管下の8・25水産事業所支配人の手紙を受け取った。

待っていた手紙、大漁を知らせる嬉しい手紙であった。

軍人の食生活の改善を願って4隻の漁船を事業所に贈った第1書記は、去る5月27日、事業所を訪れて、豊穣の秋を思わせるよう海洋での大漁を期待するとして漁船の名を「丹楓(タンプン)」（紅葉したカエデ）と名づけた。そして、魚を大量に捕獲して軍人たちに供給しよう、こ

れは最高司令官の命令ではなくお願いだ、大漁の暁には支配人が手紙で喜びを知らせてくれるようにと言った。

第1書記は吉報に接するや、12月15日、寒風をついて遠方の水産事業所へ向かい、事業所に到着するとまっすぐに塩魚庫と魚類冷凍貯蔵室へ足を運んだ。

塩魚庫にぎっしりと詰まった魚を見た第1書記は、こんなに多い魚を見るとここを立ち去りたくない、軍人たちに送る魚を背景にした写真を残そうと言って、幹部たちを側に呼んだ。

軍人たちに魚を切らさず供給できるようになったとしてそんなにも喜び、その消息を知って喜ぶ父母たちの気持ちまでおしはかる第1書記。こうして名勝や記念碑でもない魚を背景にして喜びにあふれた写真

が撮られたのである。

第1書記は、軍人たちにより多くの魚を送ることができるよう最高司令官を心から助けてくれた、本当に有り難いと言い、この水産事業所に来るとわれ知らず笑いがこぼれる、漁港には大漁の汽笛の音、船倉には魚がいっぱいという歌の歌詞が自然に頭に浮かんでくると喜びを隠しきれなかった。

大漁の汽笛の音

12月26日、金正恩第1書記を迎えて、本年度の漁獲作業でかつてない大漁をあげ、軍人たちの食生活を向上させるうえに大きく寄与した朝鮮人民軍水産部門の幹部、船長、漁労工に対する党及び国家の表彰式が行われた。

第1書記は、誇らしい成果をあげて党及び国家の表彰を受ける人たちを熱烈に祝い、軍人たちに魚を常時供給しようとあれほど心を砕いた金日成同志と金正日同志の念願を叶えることができたとし、人民軍水産部門の模範的な幹部と船長、漁労工たちにこの世のすべての物を与えても惜しくはないと述べた。

第1書記は軍隊で大豆農作の熱風と共に水産副業の熱風が巻き起こった結果、軍人たちに大豆食品のみならず、魚類も常時供給できる確固とした見通しが開かれた、軍人たちに対する献身的奉仕精神、父母に代わって彼らの子女の面倒をわれわれが見るという決心をすればきわめられない要塞はないと言って、人民軍水産部門に対し綱領的な課題を与えた。

第1書記は、人民軍の全水産部門が常に船倉に魚があふれ、漁港ごと

に大漁の汽笛の音がいっそう高く鳴り響くようにしようと呼びかけた。

第1書記は、人民軍水産部門の模範的な幹部と船長、漁労工に党及び国家の表彰を手ずから行い、党中央委員会の庁舎の前で朝鮮人民軍水産部門熱誠者会議の参加者と共に記念写真を撮った。

馬息嶺スキー場

スキー場の頂で

5月26日、金正恩第1書記は建設中の馬息嶺(マシンリョン)スキー場を視察した。

展望台でスキーコースとヘリポートの建設状況を確かめた第1書記は、馬息嶺スキー場の頂点であるテファ峰に休息閣をもっと大きく

建て、中間点にも休息閣を建てるよう指示し、スキー場全域に良種の樹木をたくさん植える問題をはじめ建設の方向と方途を具体的に示した。そして、海抜1360mのテファ峰の頂に上り、多分ここから俯瞰する東海の日の出が見物だろう、今も景色がよいが、雪にうずもれたスキー場は一層すばらしいだろうと語った。

「馬息嶺速度」の創造へと

6月4日、金正恩第1書記はアピール「『馬息嶺の速度』を創造して社会主義建設のすべての部門で新たな全盛期を開いていこう」を発表した。第1書記はアピールで、馬息嶺スキー場建設の任務を受けた軍人たちの献身的な努力について指摘した。

軍人建設者たちは着工後わずか1年足らずで岩でごつごつした険しい山地を掘削し、数十万㎡の面積に延べ10余万mに達するスキー走路を拓く驚異的な成果をあげた。これは、党の意図であれば山を移し海をも埋める決死貫徹の闘士である人民軍将兵のみが創造できる奇跡であった。

第1書記は、社会主義大建設戦闘で英雄的偉勲を立ててきた軍人建設者たちは、不屈の精神力と頑強な突撃戦をもって「馬息嶺の速度」を創造し、スキー場の建設を年内に終えるべきであり、全国すべての軍人と人民も、その精神、その気迫で社会主義建設のあらゆる分野で大飛躍、大革新を起こすよう呼びかけた。

「馬息嶺の速度」の創造を呼びかけた第1書記のアピールは、全朝鮮軍民が精神力を総発動し、社会主義強盛国家の建設でかつてない奇跡と偉勲を生むようにした偉大な推進力となった。

文明強国のシンボルの一つに

8月17日、金正恩第1書記は、飛躍の熱風が巻き起こっている馬息嶺スキー場を視察した。

スキー場の建設者たちは、「馬息嶺の速度」の創造を呼びかけた第1書記の愛国的アピールに応えて、険しい地形と雨期という悪条件を克服し、20余の建築物の骨組み工事を早くも完了していた。

第1書記は、先の5月26日に来て見た時とは建設場の様相がすっかり変わっているとして、驚嘆すべき奇跡を生んでいるスキー場建設者たちの偉勲を高く評価した。

スキー場の建設に拍車をかけるうえでの具体的な指示を行った第1書記は、馬息嶺スキー場は朝鮮人民が遠い将来にわたってその恩沢にあずかり、社会主義的栄耀栄華を享受することになる万年の大計のモニュメンタルな創造物であり、文明強国のシンボルの一つである、建設者たちが千年責任を負い万年を保証できるよう、建築物の質を最上のレベルで保障すべきであると強調した。つづけて第1書記は、軍民の団結した力で世界一流のスキー場を建設し、勤労者と青少年により文化的で幸せな生活条件を提供して、馬息嶺地区で社会主義の笑い声、労働党万歳の声が高らかに響き渡るようにしようと言った。

遜色なく

馬息嶺スキー場の建設を構想し、山勢の険しい建設現場を訪れるなど建設者たちに大きな信頼と愛を注いできた金正恩第1書記は、11月2日、スキー場の建設現場を再び視察した。

まず特異な形式で建てられているホテルの内外を見た第1書記は、軍

人建設者たちが山地の味わいを生かし、自然の環境をそのまま見るように立派に建設しているとして満足し、馬息嶺ホテルは対象の特性と用途に即して設計し、施工することをむねとする党の建築美学思想が十分に具現された非の打ち所のない建築物であると語った。

第1書記はつづけて初級及び中級走路の休憩所を見て、党の意図に沿って休憩所を立派に建設したとしてたいそう喜び、ここを訪れる人たちが身体の鍛練ばかりか、楽しい憩いのひとときを過ごせるよう、スキー場のすべての休憩所を遜色なく建てなければならないと指摘した。

このように第1書記は勤労者と青少年が利用する休憩所のどの一つにも遜色があってはと心を砕き、馬息嶺スキー場を世界にまたとないスキー場につくり上げるための課題と方途を具体的に教えた。

この日第1書記は、馬息嶺スキー場の完成は間近い、これは明らかに軍人建設者の功労であり、彼らの英雄的偉勲が生んだ誇るべき成果であると語り、馬息嶺スキー場の建設を軍隊に任せたのは本当によかった、このような軍隊を持っているのはわが党の誇りである、と力をこめて言った。

再び馬息嶺スキー場を訪れて

愛する人民が一日も早く社会主義的栄耀栄華を満喫できるようにと願って金正恩第1書記は、12月14日、落成を前にした馬息嶺スキー場を訪れた。

第1書記の意図を体した軍人たちによる21世紀の新しい「一当百」の速度、「馬息嶺の速度」の創造によって馬息嶺スキー場はほぼ完成したのである。

第1書記は馬息嶺ホテル、スキーサービス所及び宿泊用の建物、初

級及び中級走路の休憩所を見て回り、党の意図に沿ってすべての建築物とサービス施設の設計と施工、建材の選択それに施設物の配置も大変よく出来ている、とりわけわれわれの力と技術をもって建設し、われわれの思い通りに運営できるようになったことが何よりもよいと言った。

数の上でも、また総延長距離でも世界的なスキー走路を満足げに見渡した第1書記は、走路を思う存分滑走し笑いはしゃぐ勤労者や青少年学生たちを思うと胸がふくらむと言って、たいそう喜んだ。

第1書記は、全国の青少年学生が馬息嶺スキー場でスキーやスケート、それにそりにも乗って冬季のキャンプ生活ができるよう、数百名の収容能力を持つ宿所とサービス施設を増設しようと言って、その位置を定め、第2段階の建設で逸すべきでない問題について一つひとつ具体的に指摘した。

第1書記は、1年が暮れてゆく12月の酷寒のなかでも党の意図を違えず決死貫徹している軍人建設者たちのことを思うと胸が熱くなる、祖国と人民のために立てた彼らの偉勲をわが党は永遠に忘れないであろうと、最上の評価を与えた。

祖国の繁栄と人民の幸福を願う第1書記の構想と精力的な指導のもと、その意図を貫いていく人民軍軍人の愛国心に支えられて、馬息嶺スキー場完成の日は日一日と迫っていた。

献 身

社会主義文明国家建設へと呼びかけた党のアピールに応えた朝鮮人民軍軍人たちが立てた英雄的偉勲によって、最短期間内に馬息嶺

の風致秀麗な山岳地帯に、世界一流のスキー場が建設され、ここにスポーツと観光、休息に要するすべての条件が完璧に備わった総合的なウィンタースポーツの拠点が誕生した。

12月28日、金正恩第1書記は完成した馬息嶺スキー場を訪れ、馬息嶺ホテルとスキーサービス所及び宿泊所を見て回り、食堂、商店、出版物販売所、簡易売店などにも立ち寄って、サービス活動の準備状況とサービス計画について詳しい報告を受け、サービス施設はすべて人民の志向と要求、情緒と美感に合いながらも、スキー場へやって来る人たちの便益を最大限にはかれるよう建設された、馬息嶺地区の特色が立派に生かされている、完璧だと言ってたいそう満足した。

第1書記は、人民が利用するロープウェーの安全性と便利さを確かめるため親しくゴンドラに乗った。雪に覆われた馬息嶺の頂点に向かうゴンドラに座り、スキー場を利用して喜ぶ人民と青少年の姿を思い描き、満面に笑みを浮かべた。

三伏のある日、現地指導を続けていた第1書記は次のように述べた。

わたしは、わが党と軍隊と人民の信頼と期待を片時も忘れず、党と革命、祖国と人民のためにすべてをささげて働くでしょう。わたしは、今でもすぐ党と革命、祖国と人民のために生命をささげよというなら、ためらいなくささげる覚悟ができています。……

第1書記はそのことば通りに献身してきたし、今後も喜んで献身するであろう。

第1書記の献身と労苦によってますます輝きを増す祖国の未来と、いや増す人民の幸せを予告して2013年は暮れ、新年2014年が明け始めていた。

2013年の金正恩第1書記

著者：李正花、石哲元、朴成金、朴銀順
編集：安鉄剛
翻訳：金時習、金竜一
レイアウト：方成姫、金正蓮
発行所：朝鮮民主主義人民共和国外国文出版社
発行：チュチェ103(2014)年11月

ㄱ-483594

E-mail:flph@star-co.net.kp
http://www.naenara.com.kp